

官報

號外

明治三十二年一月二十五日

水曜日

印刷局

第十三回 貴族院議事速記録第十五號

明治三十二年一月二十四日(火曜日)午前十時二十三分開議

議事日程 第十五號 明治三十二年一月二十四日

午前十時開議

第一 下田幸三郎君(阿部賢吉君請暇ノ件)

第二 商法修正案(政府提出)

第三 所得稅法改正法律案(政府提出案)

第四 千葉縣茨城縣境界變更法律案(議院同付案)

第五 行政裁判法中改正法律案(議院同付案)

第六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

○議長(公爵近衛篤磨君) 是ヨリ報告ヲ致シマス

(小原書記官朗讀)

去二十一日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ即日內閣總理大臣ヲ經由シテ裁可ヲ奏請シ及可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知シタリ

明治三十一年度歲入歳出總豫算追加案(第三號)

明治三十一年度歲入歳出總豫算追加案(第六號)

同日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ即日衆議院ニ送付シタリ

銀行條例中改正法律案

銀行ニ關スル法律ニ定メタル過料ニ關スル法律案

同日本院ニ於テ修正議決シタル政府提出海港檢疫法案ハ即日衆議院ニ送付シタリ

同日本院ニ於テ可決シタル高等學校及帝國大學増設ニ關スル建議書ハ即日政府ニ呈出シタリ

昨二十三日政府提出要塞地帶法案ヲ受領シタリ

同日衆議院ヨリ政府提出裁判所設立廢止及管轄區域變更ニ關スル法律案ヲ受領シタリ

各委員長副委員長左ノ適當選セラレタリ

事業公債及鐵道公債特別會計法案外八件特別委員會

委員長 公爵二條 基弘君 副委員長 子爵由利 公正君

○議長(公爵近衛篤磨君) 是ヨリ日程ニ移リマス

○子爵岡部長職君 本朝ハ豫算第五科ノ分科會ヲ開キタウゴザイマスルガ、

貴族院議事速記録第十五號

明治三十二年一月二十四日

議長ノ報告

議員請暇ノ件

商法修正案 第一讀會ノ續

一八三

議場ノ御都合ガ宜シケレバ是ヨリ退席ヲ致シタイト思ヒマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 今御退席ニナリマシテハ定足數ニ差支ヘマスカラ暫ク御控ヲ……日程第一下田幸三郎君疾病ニ附キ二十一日間、阿部賢吉君疾病ニ附キ三週間、請暇ノ件、御異議ナクバ許可スルコトニ致シマス、商法修正案、政府提出第一讀會ノ續、特別委員長報告

(侯爵黑田長成君演壇ニ登ル)

○侯爵黑田長成君 商法修正案ノ委員會ニ於キマシテノ經過竝ニ結果ヲ御報告致シマス、本案ニ附キマシテハ去ヌル十四日委員ニ付託ニナリマシテ其以來數回ノ委員會ヲ開キマシテ遂ニ原案通ニ全部可決スベキモノト認メルコトニナリマシタ、商法ノ修正案ハ御承知ノ通昨年當院ノ議ニ付セラレテ本院ニ於テハ委員會ノ審査ヲ經マシテ本會議ノ議決モ終ッテ衆議院ニ同付ニナッタノデアリマス、然ル處衆議院ハ解散ニナリマシテ其タメニ遂ニ當時、修正案ガ法律トシテノ效力ヲ生ズルコトガ出來ナイコトニナリマシテ是マデノ比較的ニ不完全ナル所ノ舊商法ガ今日マデ行レテ居ルト云フ譯ニナッテ居ルノデアリマス、今此修正案ヲ委員會ニ於テ審査致シマシタ所ガ大體ニ於テハ昨年提出ニナリマシタ案ト大イナル差ハアリマセヌ、唯條項ニ附イテ少々修正ガアルノデアリマス、畢竟法典調查會ニ於テ鄭重ナル審査ヲ經テ提出ニナッタノデアリマスカラ此度ノ修正ハ總テ適當ナモノデアルト認メマス、詰リ是マデノ足ラザル所ヲ補ヒ又不必要ナル所ヲ刪除致シタニ過ギナイノデアリマス、ソレ故ニ今回提出ノ案ガ前期提出ノ案ヨリ一層完美シタモノト認メマシタ次第デアリマス、其上、改正條約實施期限モ段々近イテ參ルコトデアリマスルカラ尙更本案ノ速ニ可決セラレテ法律トナッテ發布ニナルコトガ益々必要デアルト委員會ニ於テハ認メマシタ次第デアリマス、此段御報告ヲ致シマス

○馬屋原彰君 少シク大體ニ附キマシテ委員長ナリ又ハ政府委員ナリニ質問ヲ致シタウゴザイマス、此度ノ改正ニ依ッテ見マスルト云フト此株式會社中ニ於キマシテハ重役ノ任期年月等ガ大分變テ居リマス、此改正法ガ行レマシタ曉ニハ此株式會社ニ對シテハ總テ此改正ノ法律ヲ履行シテ一樣ニ是ニ抵觸スル所ノ從來ノ事項ハ改正ヲサセルト云フ積デアリマス、又ハ株式會社中ノ或ル種類ダケハ必シモ此改正法ニ據ラズシテ他ニ特別ナル法律デモ設ケラレテワレデ取除ケマスルト云フ御積ガアリマス、之ヲ一應伺ッテ置キタイ

○侯爵黑田長成君 唯今ノ御質問ハ委員會ニ於キマシテモ別段其様ナ質問モ出マセヌヤウデゴザイマシタ、速記録デモ御承知ノ通デアリマス、殊ニ唯今ノ如キ御質問ハ政府ノ意思ヲ承ハラネバ何トモ申シ難イコトデアリマスカラ政府委員カラ答辯ニナルヤウニ希望致シマス

○馬屋原彰君 然ラバ政府委員カラ御答辯ヲ請ヒマス

(政府委員岡野敬次郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(岡野敬次郎君) 唯今ノ御質問ニ附キマシテハ商法修正案中特別ノ明文ハナイノデアリマス、重役ノ任期ニ附キマシテハ取締役ノ任期ハ現行法モ商法修正案モ變テ居リマセヌノデ、矢張取締役ノ任期ハ三年以上ニ定ムルコトガ出來ナイト云フダケノ規定デアリマス、監査役ノ任期ニ附キマシテハ現行法ト修正案ト少シ違ッテ居ルノデアリマスガ此商法修正案前ニ選任セラレタ監査役ノ任期ハ或ハ商法修正案ニ定メテアル任期ヨリモ長イモノガ固ヨリ有リ得ルコトデアリマス、現ニ監査役ノ任期ト云フモノヲ二年ニ定メタト云フ例ハ實際ニ於テ澤山アルノデアリマス、商法修正案ニ據リマスレバ監査役ノ任期ハ一年ニナツテ居ルノデアリマス、商法修正案ノ施行前ニ選任セラレタ所ノ監査役ノ任期ハ商法修正案ノ施行ト共ニ一年ニ縮マルノデアリカ、或ハ其施行前ニ選任セラレタモノデアリカ矢張從來ノ如ク二年ト云フコトニスルカト云フ御質問ノ趣意ト考ヘマス、此御質問ニ關スル規定ハ商法修正案ノ中ニハ設ケマセヌデ商法施行法ト云フモノヲ今起草中デアリマシテ最早不日決議ニナラウト考ヘテ居ルノデアリマス、是ニ一ツノ規程ヲ置キマシテ商法修正案ノ施行前ニ選任セラレタル所ノ監査役ハ商法修正案ノ施行後ニ於テ新ニ選任セラレ、者ノ外ハ矢張從來ノ如ク或ハ定款或ハ株主總會ノ決議ニ據ッテ前ノ任期ヲ矢張守ッテ居ルノデアリ、丁度例ヘバ商法修正案ノ行レマス前ニ選バレタ監査役ノ任期ハ二年ニナツテ居ル其選バレタトキカラ、例ヘバ半年ノ後ニ於テ商法修正案ガ施行ニナレバ其監査役ノ任期ハ施行ノ後ト雖モ尙ホ一年半アル譯デアリマス、然シテ其監査役ハ商法施行後ニ於テ任期ガ滿チテ更ニ監査役トシテ選舉セラレタ場合ニハ商法修正案ノ趣意ニ依ッテ其任期ハ一年トスルト云フ考デアリマス

○馬屋原彰君 モウ一應伺ヒマス、成ル程今ノ御説明デ分リマシタガ然レバ此株式會社トアル以上ハ從來定款ニ據リ又現行法ニ據ッテ既ニ選バレテ居ル所ノ者ハ滿期マデハ已ムヲ得ヌノデアリマスガ此後改選ニナツタ以上ハ必ズ是ニ據ラセルト云フ御趣意デアリマスカ

○政府委員(岡野敬次郎君) 御答致シマスルガ商法修正案ニ於キマシテ一年ト云フコトニ縮メテ趣意ニ據リマシテ將來監査役トシテ選舉セラル、者ノ任期ハ商法修正案ノ規定ニ依ラネバナラヌト云フコトニ致シマス考デアリマス、デ其株式會社ノ種類ニ附イテハ特ニ明文ヲ設ケマセヌノデアリマスカラ總テノ株式會社ノ監査役ニ其規定ガ適用セラル、ト云フコトニナルノデアリマス

○馬屋原彰君 ツレデハ別ニ株式會社中デ或ル種類ダケハ特別法ヲ設ケテ其特別法ニ依ラスルト云フ御積デナクシテ即チ此有ラニル株式會社ハ劃一ニ此新法ニ依ラセルト云フ御見込デアリマスナ

○政府委員(岡野敬次郎君) 全ク其通デゴザイマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 別段御發議ガナクバ本案ヲ二讀會ニ移スヤ否ヤノ決ヲ取リマス、本案ヲ二讀會ニ移スベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵近衛篤磨君) 過半数ト認メマス

○侯爵黑田長成君 本案ニ附キマシテハ最早格別御議論モナイコト、存シマスカラ引續イテ第二讀會ヲ開カレンコトヲ希望致シマス

○子爵曾我祐準君 贊成

○三浦安君 贊成

○議長(公爵近衛篤磨君) 直チニ第二讀會ヲ開クト云フニ御異議ガナクバ二讀會ニ移リマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛篤磨君) 朗讀ハ省略致シマス、第一編總則、第一章、第二章、第三章、第四章、第五章、第六章、第七章、是ダケヲ問題ニ供シマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 第一章ヨリ第七章マデ御異議ガナクバ原案ニ決シマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛篤磨君) 次ニ第二編第一章、第二章、全部

○議長(公爵近衛篤磨君) 御異議ガナクバ原案ニ決シマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛篤磨君) 第三章、第四章、第五章、第六章、御異議ガナクバ原案ニ決シマス、御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛篤磨君) 次ハ第三編全部ヲ問題ニ供シマス、御異議ガナクバ原案ニ決シマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛篤磨君) 第四編、御異議ガナクバ原案ニ決シマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛篤磨君) 第五編、御異議ガナクバ原案ニ決シマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛篤磨君) ズーット前ノ方ニ「商法別冊ノ通り之ヲ定ム云々」ト云フ三行バカリノコトガアリマス之ヲ問題ニ供シマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛篤磨君) 御異議ガナクバ原案ニ決シマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛篤磨君) 是ニテ二讀會ハ終リマシタ

○侯爵黑田長成君 直ニ第三讀會ヲ開カレンコトヲ希望致シマス

○子爵曾我祐準君 贊成

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛篤磨君) 是ニテ二讀會ハ終リマシタ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛篤磨君) 是ニテ二讀會ハ終リマシタ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛篤磨君) 是ニテ二讀會ハ終リマシタ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛篤磨君) 是ニテ二讀會ハ終リマシタ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○三浦安君 賛成

(賛成「ト呼フ者アリ」)

○議長(公爵近衛篤磨君) 直チニ三讀會ヲ開クニ御異議ハゴザイマセヌカ

(異議ナシ「ト呼フ者アリ」)

○議長(公爵近衛篤磨君) 然ラバ三讀會ニ移リマス、本案全部御異議ガナケレバ原案ニ決シマス

(異議ナシ「ト呼フ者アリ」)

○議長(公爵近衛篤磨君) 然ラバ可決ト致シマス、所得税法改正法律案二讀會ヲ開キマス、第一條第二條タケヲ問題ニ供シマス

(河田書記官朗讀)

第一條 帝國内此ノ法律施行地ニ住所ヲ有セ又ハ一箇年以上居所ヲ有スル者ハ此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條 前條ニ該當セサル者此ノ法律施行地ニ資産營業又ハ職業ヲ有スルトキハ其ノ所得ニ附イテノミ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

○議長(公爵近衛篤磨君) 第一條第二條御異議ガナケレバ原案ニ決シマス

(異議ナシ「ト呼フ者アリ」)

○議長(公爵近衛篤磨君) 次ハ第三條

(河田書記官朗讀)

第三條 所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

第一種 法人ノ所得 千分ノ二十五

第二種 個人ノ所得

十萬圓以上 千分ノ五十五

五萬圓以上 千分ノ五十

三萬圓以上 千分ノ四十五

二萬圓以上 千分ノ四十

一萬五千圓以上 千分ノ三十五

一萬圓以上 千分ノ三十

五千圓以上 千分ノ二十五

三千圓以上 千分ノ二十

二千圓以上 千分ノ十七

千圓以上 千分ノ十五

五百圓以上 千分ノ十二

三百圓以上 千分ノ十

戸主及其同居家族ノ所得ハ第二種ニ限リ之ヲ合算シ其ノ總額ニ依リ本條ノ稅率ヲ定ム戸主ト別居スル家族二人以上同居スルトキ亦同シ

特別委員ノ修正

第三條 所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

第一種 法人ノ所得

千分ノ二十五

第二種 此ノ法律施行地ニ於テ支拂ヲ爲ス公債社債ノ利子

千分ノ二十

第三種 前各種ニ屬セサル所得

十萬圓以上 千分ノ五十五

五萬圓以上 千分ノ五十

三萬圓以上 千分ノ四十五

二萬圓以上 千分ノ四十

一萬五千圓以上 千分ノ三十五

一萬圓以上 千分ノ三十

五千圓以上 千分ノ二十五

三千圓以上 千分ノ二十

二千圓以上 千分ノ十七

千圓以上 千分ノ十五

五百圓以上 千分ノ十二

三百圓以上 千分ノ十

戸主及其ノ同居家族ノ所得ハ第三種ニ限リ之ヲ合算シ其ノ總額ニ依リ本條ノ稅率ヲ定ム戸主ト別居スル家族二人以上同居スルトキ亦同シ

○議長(公爵近衛篤磨君) 水野遵君ヨリ更ニ修正ガ出テ居リマスカラ之ヲ朗讀致サセマス

(河田書記官朗讀)

水野遵君修正案

所得税法改正法律案修正案

第三條第二種(特別委員修正ノ第三種)ノ各項ヲ左ノ通り修正ス

十萬圓以上 千分ノ六十五

七萬圓以上 千分ノ六十

五萬圓以上 千分ノ五十五

四萬圓以上 千分ノ五十

參萬圓以上 千分ノ四十五

貳萬圓以上 千分ノ四十

壹萬圓以上 千分ノ三十五

七千圓以上 千分ノ三十

五千圓以上 千分ノ二十五

參千圓以上 千分ノ二十

貳千圓以上 千分ノ十七

千圓以上 千分ノ十五

五百圓以上 千分ノ十二

貳百五十圓以上 千分ノ十

○議長(公爵近衛篤磨君) 水野君ハ別段説明ハゴザイマセカ

○水野君 議長

○議長(公爵近衛篤磨君) 水野君

(水野君演壇ニ登ル)

○水野君 諸君、所得稅法改正案ノ第三條ニ附イテ修正ヲ致シタウ存シマシテ案ハ印刷ニ付シテ唯今皆様ノ御手許ニ配付シテアル通ゴザリマス、是ハ原案ノ累進額ノ間ニ七万圓ト四万圓ト申スモノヲ加ヘルノガ一ツデゴザリマシテ別ニ理由ハゴザリマス、又其ノ次ニ一萬圓ニ三萬圓、五萬圓ト飛シテ居リマスル課稅上ノ公平ヲ得ルニハ矢張其間ニ四萬圓ヲ加ヘタガ宜シト考ヘマシテ七萬圓ト四萬圓ノ二廉ヲ加ヘマシタノデゴザリマス、從テ其結果ト致シテ稅率ガ上ノ方デ少々増シマスル十萬圓以上千分ノ五十五ト申スノハ六十五トナリマシテ七萬圓ト申スノハ千分ノ六十二ナリマシテ五箇ツツ累進ヲ致シマシテ結果デ稅ガ少々増シマスル、モウ一ツハ此原案ノ三百圓即チ現行法ノ三百圓ト申シマスルヲ五十圓下ゲマシテ二百五十圓ニ致シマスル、是ハ委員會ニ於キマシテモ色々議論ノゴザリマシタコトデゴザリマシタガ議ガ熟シマセズ竟ニ原案ニ決シマシタ、尙ホ熟考致シマスルニ第一種第二種即チ法人ノ所得ト致シテ此度ハ課稅ヲ致スコトニナリ第二種公債證書利子等ヲ個人ノ手ニ渡ラヌ中ニ引去ルコトニナリマシタ故ニ現在ソレ等ノ諸種ノ所得ヲ以テ三百圓ニ滿チテ居ル人ニハ改正法案施行ノ結果トシテ所得稅ヲ納メナイコトニ相成リマス、例ヘバ二百八十圓ノ所得ガアリマシテ之ニ公債證書ヲ所有致シテ居マシテ其利子ガ二十圓アツテ三百圓ニナツテ居タ人ガ二十圓ノ公債ノ利子ヲ政府ノ方デ引去ツテ渡サタメニ二百八十圓ノ純所得ノアル人ガ所得稅ヲ納メル義務ガナクナツテ仕舞フト云フコトニナリマス、然ラバ却ツテ此所得稅改正案ノ眼目タル稅額ヲ増サウト云フ方ニ反對ノ結果ヲ來スコトハ明瞭デゴザリマス、左様致シマスル上ニハ丁度此二百五十圓トシテ五十圓切下リマスルト唯今申シマシタ如ク二百八十圓若クハ七十圓ノ所得ノアル人ハ矢張二十圓若クハ三十圓ハ公債利子ノ方デ納稅ヲ致シ二百五十圓ハ二百五十圓デ納稅ヲ致スコト云フコトニナリマスルト現今行レテ居リマスル法律ト同様ノ結果デ別ニ是ハ納稅者ニ苦痛ヲ加ヘルコトモゴザリマセヌト信シマス、差引殘リマシテ唯ソレ等ノ所得デナクシテ營業上今日マデ三百圓ニ滿チナイカ二百五十圓以上ノ所得ハアルト云フ營業者ガ新シキ納稅額ヲ脊負フコトニ相成リマス之ガ本員ガ第三種ノ累進率其他ニ附キマシテ修正ヲ加ヘマシタ理由デゴザリマス、マダ此次ノ條ニハ移ッテ居リマセヌガ關連モ致シテ居リマスルコトデゴザイマスルデ登壇ノ序ヲ以テ第四條ニ修正ヲ加ヘマシタ理由ヲ申上ゲマスル、是ハ一讀會ニ下條ヨリ政府委員ニ質問ノアリマシタ場所デゴザイマシテ委員會デモ左ノミ是ハ研究ヲ致サヌ場所デゴザイマス、尙ホ段々他ノ議員諸君等ヨリモ御話ヲ承ツテ見マスルトドウモツレハ原案ノ

説明ダケデハ足リマセヌ、矢張修正ヲ必要ト認メマシタデ「田畑ヨリノ所得ハ前三箇年間所得平均高ヲ以テ算出スヘシ」即チ是ハ現行法ノ文章其儘ヲ是ヘ取用井マシタノデゴザリマス、是ハ原案ノ修正ニ因リ、政府委員ノ説明ニ因リマスルト其現行法デハ「前三年ノ平均」云々トアルガツレニハ及バナイ、大底其人ノ所得ト云フモノハ四月ニ届出ツルノデ四月ニナレバ其年ノ所得ハ大底分ル、ソレ故ニ現行法ニ三年ノ平均額トアルニモ拘ラズ、原案デハ其年ノ所得ト云フコトニ致シタト云フ説明デゴザリマシタガ尙ホ退イテ考ヘマスルト普通ノ營業上若クハ官吏等ノ俸給ニ衣食スル者ハ當年ノ所得ハ當年ノ豫算デ分リマスルガ此田畑ヨリノ所得ハソレデハ却テ不公平ヲ來シ現行法ヨリモ惡イ結果ヲ來スト存シマス、ト申シマスルノハ四月マデハマダ田申シマスルト苗代前デアリマスルデ其年ノ收入ヲ豫想スルコトハ出來ナイ、モウ一ツハ此水場ノ地方ノ岐阜縣若クハ千葉縣利根川邊リ等ノ田地ハ三年ヲ平均致シマスルト一年ガ豐作デ一年ガ半作デ一年ガ水ノタメニ皆無ト申スヤウナ場所ガ多ウゴザリマスルガツレ等ノ所得ト申スモノハ平均致シテ始テ適當ノ課稅ガ出來マスルガ唯其年ノ想像ニ因リマスルト地主ハ皆無ト云フ想像モ出來マセヌ故ニ先ヅ平年ノコトヲ以テ届出デヌケレバ收入官吏ハ承知致サヌ、然ルニ其所得ハ四分ノ一以上減ツタトキニ始テ修正ヲ加ヘテ貫ヘマスルケレドモ四分ノ一以上ニ相成ラズニ年々ノ所得減リガアリ若クハ皆無等ノコトガアリマシタトキニ其時毎ニ納稅者ト收稅官吏トノ間ニ衝突ヲ生ジテ謂レナキコトニ地方ノ紛亂ヲ招キマセウト存シマス、且ツ承リマスル所ニ據リマスルト大藏省デ始テ所得稅法ヲ立案致スコトニ此箇條杯ハ其時ノ當局者ハ餘程苦シデ研究ノ結果三年ノ平均ヲ取ツタラバ公平デアラウト云フコトニ極マツタサウニゴザイマス、ノミナラズ此三年ノ平均ト云フコトニ就イテハ今日マデ納稅者ニ苦痛ノアツタコトモ承リマセヌ、旁々以テ之ハ現行法ノ通ニ入レマシタ方ガ宜イト存シマシテ加ヘマシタノデゴザリマス、其次ニ第六條デゴザリマスルガ、是ハ印刷誤デゴザリマスルデ此所デ申上ゲテ置キマスルガ第三條ノ二百五十圓ガ成立チマスレバ從ツテ自然ノ結果トシテ第六條ノ三百圓ト云フモノガ二百五十圓ト修正ニ相成ラヌケレバナラヌノデゴザイマス、印刷ニ洩レマシタデ是ダケヲ附加ヘテ申上ゲテ置キマス、ドウカ御贊成ヲ願ヒマス

○子爵曾我祐準君 水野君ニ御尋致シタイガ、水野君ノ修正案ガ通過シマスルト此所得ノ差ト云フモノハドウナリマスカ、政府ノ考ヘテ居ルヨリハ幾ラバカリ増スト云フ御計算ガ豫メアラウト思ヒマスカラ承リタイ、而シテ又二百五十圓ニナルタメニ課稅サル、頭數即チ人數ハドノ位ニナリマスカ此二箇條……

○水野君 本員ノ豫算デハ澤山ハ増シマスミイト存シマス、先ヅ三百圓以上納メテ居ル者ノ數ガ十七万人以上カゴザイマスカラ其半分位デアリマセウ、其金額ガ矢張半額デ八萬圓若クハ十萬圓位ノ増シデアラウト存シマス、

先程申シマシタ通、増スヨリハ現ニ三百圓ヲ納メテ居ル者ガ半分位ハ脱税……脱税ハゴザリマセヌガ、納税義務ヲ免ル、ト云フコトガ却ツテ忍ロシウゴザイマスルデ、斯ウシテ置イタナラバ差引イテ十萬圓位ノ増税ニナラウト存ジマス

○子爵曾我祐準君 人數ハ幾ラ

○水野達君 人數ハ唯今申上ゲマシタ通三百圓以上ノ納税者ガ十七萬人、其半數位デアラウト想像致シマス、即チ八萬五千……

○子爵曾我祐準君 尙ホ御尋致シタウゴザイマスガ、脱税ト云フ語ヲ御用ヒナサツテ今マデ三百圓デ税ガ掛ツタ者ガ今度ノ法律デハ法人若クハ公債證書ヲ一個人デ取ラナイタメニ免レル者ガアルト仰シヤリマスルガ、コレト同時ニ法人ノ方デ取ラレルト云フ結果ハ出來ハセヌカ、今マデハ二百八十圓ナリ二百七十五圓ナリノ所得ガアツテ其一部分或ハ大部分ハ會社ノ配當若クハ公債證書デアッタナラバ其者ハ舊來所得税ハナイ者デアアル、然ルニ今如何ナル小サイ會社デモ如何ナル少イ公債證書デモ公債證書トシテ法人トシテ取ラレルニ依ツテ寧ロ今マデ洩レテ居ツタ者ガ此法律ノタメニ税ヲ負擔セニヤナラヌト云フコトニナル、水野君ハ之ニ反シテ脱税ノ如ク仰シヤルガ此小サイ者ガ之ガタメニ税ヲ課セラレルト云フコトニナルニ相違ナイ、三百圓未滿ノ法人若クハ公債證書デ所得ノアツタ者ハ是マデ税ガナカッタノデアアルガ、此法律ガ通過スルタメニ有税ト云フコトニナルガ其邊ノ御考ハドウデアリマスカ

○水野達君 御答致シマスガ、前以テ御斷リ申シテ置キマスルハ脱税ト申ス言葉ハ一言申シマシタガツレハ私が改メテ納税義務ヲ免ル、ト申シマシタデサウ願ヒタウゴザリマス、一方デ法人若クハ公債證書デ取ラル、ト云フコトハ御覽ノ通デゴザリマス、私モ承知致シテ居リマス、ナレドモ一ツ加ヘテ一方デ義務ヲ免ル、ト云フコトニナリマスルノヲ比較シテ見マスルト私ハ却ツテ此三百圓トシテ免レル方ノ金額ガ多イト推想致シマシタメニ二百五十圓ト致シテドチラモ先ツ税ヲ納メルコトノ平均ヲ得テ一方ハ免レ一方ハ課セラレルト云フコトノナイヤウニ致シタイト云フノガ此修正ノ主眼デゴザリマス

○渡邊洪基君 議長

○男爵尾崎三良君 議長

○議長(公爵近衛篤磨君) 渡邊君ハ御質問デスカ

○渡邊洪基君 質問デハアリマセヌ

○議長(公爵近衛篤磨君) 尾崎君ハ御質問ナノデスカ

○男爵尾崎三良君 私人水野君ノ修正案ニ就イテ反對ノ意見ガアリマス

○議長(公爵近衛篤磨君) ソレデハ渡邊君ガ先ニナリマス

(渡邊洪基君演壇ニ登ル)

○渡邊洪基君 本員ハ即チ此所得税ノ委員デアリマシテ、此委員會ノ經過ハ第一議會ノ續ニ於キマシテ辯シマシタカラシテ又再ビ此所デ辯ズルノ必要ハ

アリマセヌ

(男爵尾崎三良君「モウ少シ大キナ聲デヤツテ下サラヌト分リマセヌ」ト述フ)

宜シウゴザイマス、ソレデ今又再ビ此所ニ修正案ガ出マシタコトニ於キマシテハ甚ダ怪シイ……怪シク思フノデアリマス、此案ハ即チ筆記デモ御覽ノ通……御覽デアリマセウガ、委員會ニ於テハ出タデアル、出テ即チ全ク賛成ノナカッタ案デアアル、ソレヲ同ジ人ガ又此所デ再ビ出サレテ賛成ヲ得タノハ誠ニマア不思議デアリマス、併シドウモ此出タ以上ハ之ニ對シテ委員會デ論ジタコトヲ此所ニ反覆セザルヲ得ヌ理窟デアリマ、此……抑、此所得税法ノ今度ノ累進率ト云フモノハ甚ダ税……税法ノ理論カラ申セバ誠ニ惡イノデアアル、元々是ハ不公平ナ不經濟ナ立方デアアルノデアアル、カルガ故ニ何ニ於テハ……委員會ニ於テモ之ヲ平等ニスルト云フ説モ出マシテ甚ダ其議論ハ宜イデアリマスルガマダ今日ノ社會ノ程度、我日本ノ唯今ノ有様デハ何分サウ云フコトニイカヌ、即チ民情ニ背ク、又ソレヲ累進率デナク平等ニシテサウシテドレモ堪ヘルヤウナ……最下限マデ堪ヘルヤウナコトニスレバ收入ガ減ルシ、收入ノ減ラナイヤウニ平等ニ課スルト下ノ方ハ大變苦ムト云フコトニナル、カルガ故ニ已ムヲ得ヌ本案モ累進率ニナツタノデアアルンデアラウシ我々モ此累進率ニ同意シタノデアアル、然ルニ此累進率ヲ大變ニ小刻ミニ刻シテサウシテ更ニソレヲ累進率ヲ上ゲル、上ゲテ此十萬圓以上ヲ千分ノ六十五ニシ七萬圓以上ヲ千分ノ六十ニシ五萬圓以上ヲ千分ノ五十五ニシ、即チ本案ノ十萬圓以上千分ノ五十五ト云フ累進率ノ極點ニ五萬圓達スルト云フニ至ツテハ實ニ驚クベキ次第デアリマス、千分ノ六十五ト云フモノハ英吉利ノ所得税ノ率カラ見マスルト丁度四倍半程ニ當ツテ居リマス、サウ云フヤウナ高イ税ト云フモノハナイノデアアル、サウシテ段々此累進税ト云フ税ハ一方ニ於キマシテハ即チ此人ノ獎勵ヲ……人ヲ獎勵スルノ、妨ニナリ富ヲ増スト云フコトノ獎勵ニ妨ニナルモノデアアル、一方ニ於テハ不公平ナモノデアアル、矢張此所得税ト云フモノハ資本ノ利子トツレカラ勞力ノ報酬ノ外ハナイノデアアル、故ニ所得ノ多イノハ必ズ勞力ガ多イカ資本ガ多イカデナケレバ出來ナイ、ソレヲ無理ニ所得ノ多イ者ニ對シテ大變ニ強イ税ヲ掛ケルト云フコトハ最モ不公平ナコトデアアル、隨テ税ハ成ルベク連レ……税ヲ連レサセルコトハ獎勵スル傾向ガアル、デ甚ダ一體不都合ナモノデアリマスガ、併シ今日十萬圓以上ノ人モ三百圓以上ノ人モ同ジク一率ニ税ヲ課スルト云フコトハ今日デハ許サヌ、人情世態ニ於テ許サヌ所デアアルカラ已ムコトヲ得ズシテ……ソレヲ更ニ上ゲルト云フコトハ實ニ苛酷デアアル、ソレカラ又此三百圓以上ト云フコトヲソレヲ五十圓下ゲテ二百五十圓ト云フコトニシテ下ゲル、其理由トシテ申サル、所ハ此法人竝ニ此公債社債ノ利子ヲ以テ取ラレル、サウスルト從前ノ三百圓……純然タル三百圓ハ其外ノモノデ取ツテ居ル者ハ免レルコトニナルト云フ説デアリマス、又其中ノ三百圓以下ノ者ハ免レル、片ッ方ノ二ツ減ルガ

タメニト云フコトデアリマス、是モ亦誠ニ苛酷ナ考デアルト思フ、一方デハ即チ公債モ……公債カラ出ル利子、又法人カラ得ル所ノ所得、此二ツノモノデ詰リ坐食スル人ガツレハツレデ以テ利子ヲ拂フノデアアル、純粹ニ働イテ……働イタラント其半分ハ即チ昔日ノ勞力ノ報イ半分ハ今日ノ勞力ノ酬ト云フモノヲ合セテ三百圓ニナッタモノガ、一方ノ昔日ノ勞力ノ報イニ附イテ三百圓以上デ利子ヲ拂ヒ其上ニ又二百五十圓マデハ更ニ又稅ヲ取ルト云フコトニナル、又此三百圓以上ト云フコトモ十年前ニ極々少クデ、アリマシテ決シテ今日三百圓以上ト云フコトガ上ツタノデハ決シテナイ、下ツテ半分ニナツタト云フコト同ジコトデアアル、所得ノ上カラ言フト……ツレヲ又縮メルト云フコトハ甚ダ道理ニ當ラヌコトデアリマス、ツレカラ此是ハ何ノ委員會デモチツトモ論ノ出ナカッタコトデアリマスルガ更ニ前三箇年ノ所得平均高ヲ以テ算出スルト斯ウ言フコトヲ入レル、所ガ是レ又何等ノ道理モナイ、今度ノ所得稅法ニ據ルト豫算デ出ヌノデアアル

○議長(公爵近衛篤磨君) 第四條ハマダ問題ニナリマセヌツレデヤ四條ノ方ハ跡ニヤルコトニ致シマス、ツレデ要スルニ此修正案ハ私共ハ絶對的ニ反對セザルヲ得ヌ、ツレカラ又議事ノ一體精神カラ見マシテモ稅ヲ課スルノニ本案ヨリ多ク稅ヲ増スト云フコトハ殆ト此各國ニモ例ノナイコトデアアル、政府ガ政費ヲ算出シテサウシテツレニ充テルノニ出スノデアアル、ツレデ此方デ議院デ増スト云フコトハ性質上許サレテ居ナイ同時ニ歲入ヲ増スト云フコトハ許サレテナイコトデアアル、或ル國ニ於テハサウ云フコトヲ禁ジテアル位ノモノデアリマス、旁々此修正ハ絶對的ニ反對ヲスルノデゴザイマス

(男爵尾崎三良君演壇ニ登ル)

○男爵尾崎三良君 此所得稅ノコトニ附キマシテハ今渡邊委員長ヨリ述べラレマシタ通ノ次第デアリマシテ既ニ委員會ニ於キマシテハ一二ノ修正ハ出マシタケレドモ皆極少數デ消滅シタノデアリマス、其中ニ此今水野君ヨリ提出セラレマシタコトモアリマシタケレドモ是ハ誰モ贊成者ガナカッタノデアリマス、豈ニ圖ランヤ再ビ是ガ議場ニ出ルト云フコトハ甚ダ我々ハ遺憾トスル所デアリマスルガ併ナガラ出タ以上ハ相應ニ之ニ對スルノ考ヲ我々委員ノ責任トシ且ツ議員ノ責任トシテ一言意見ヲ述べテ置カニヤナラスト思ヒマスルガ已ニ今渡邊君ヨリ述べラレタ通一體此稅ヲ累進率ニスルト云フコトハ甚ダ此主義ニ於テモ適ハナイ、又社會經濟ノ上ニ於テモ甚ダ宜シクナイ結果ヲ來スノデアアル、是ハ此所得稅法ニ附キマシテハ隨分其歴史ガアルノデアリマスガ始メ其明治二十年ニ元老院ヘ政府カラ提出ニナツタトキモ丁度十九級ニ分ツテ段階ヲ附ケテ出サレタコトガアリマシタ、其時ニモ元老院ニ於キマシテハ斯ノ如ク段階ヲ澤山ニ附ケテ累進率ニスルト云フコトハ甚ダ宜シクナイト云フ其タメニ各國ノ例ヲ段々調ベマシタ所ガ大抵此所得稅ノアル所ハ一率デアアル、唯一ツ其瑞西國ノ何トカ云フ「カントン」、日本ノ一縣ニモ足ラナイ

僅カ二十万カ三十万ノ「カントン」ニ一ツ此累進率ノ行レテ居ル所ガアリマシタ、マア僅ナ例デアアリマスケレドモ先ヅ日本ハ此位デ宜カラウト云フノデ政府トモ協議ヲ致シテ其上ニ十九級附ケルノハ宜クナイカラモツト簡單ニシタラ宜カラウ、併ナガラ累進率ハ到底宜クナイガマダ日本ハ之ヲ一率ニスルマデノ程度ニ至ラヌニ依ツテ先ヅ暫ク此位ガ宜カラウト云フノデ今日ノ五級ニシタノハ元老院デ改メタノデアアル、我々ハ日本ハ追々文明ノ程度ニ赴キ最早斯ノ如キ累進率ノ如キモノハ止メテ一率ニシタ方ガ宜カラウト云フ考デゴザイマシテ委員會ニ於テ提出致シマシタケレドモ是ハ贊成者ガゴザイマセナンド、皆其主意ハ尤デアアルケレドモマダ日本ノ程度ガツコマデ至ラヌニ依ツテ先ヅ暫ク是デ遣ツタラ宜カラウト云フ位ノ論デアッタ、詰リ此累進率ト云フモノハ其奥底ヲ云ヘバ社會ノ財產平等主義ニ近イノデアアツテ何デアラウト金持ニナル程餘計取ラウ、金持ニ比例シテ其比例ニ準ジテ餘計取ラナラ宜イガ上ニ行ク程餘計ニ取ルト云フ、此論ヲ擴メテ見ルト遂ニ段々上ニ行ツテ百万圓ニモナレバ大方皆取ツテ仕舞ハナケレバナラヌ、是ハ主義トシテ到底成立タヌ事柄デアアル、所ガ詰リ今日ノ社會ガ成ルベク餘計取ル奴カラハ餘計取ツテ遣ツタ方ガ宜イト云フ氣性が何トナクアルカラ先ヅ暫クツレ位ニシテ置カウ、其實十萬圓以上ノ所得ノアル人ハ餘計ニナイ、ドレ程取レルカト云フト格別取レハシナイ、ト云フノハ今日ハ十萬圓以上ノ所得ノアル人ハ澤山ナイ、大キキ華族杯ニハ十萬圓以上ノ所得ノアル人モ有リマスガ此度ノ法人ノ所得公債ノ所得ト云フモノマデ引去ツテ仕舞ヘバ會社ノ株券ノ配當金トカ公債ノ利子トカヲ除ケタナラバ恐ラクハ大キキ華族デモツレヲ除ケタ跡ノ所得ハ十萬圓以上這入ル者ハナカラウト思ヒマス、シテ見ルト唯表面上ダケ餘計ニ取ルヤウデアアルガ其實國庫ニ納マルモノハ極少イ、ツレノミナラズ此七月カラハ外國人カラモ所得稅ヲ取ルノデアリマスガ隨分斯ウ云フ不分明ナ法律ハ成ルベクヨシタ方ガ私ハ宜カラウト思ツテ居ルガ、併ナガラ多數ノ人ガマア「暫ク斯ウヤツテ置クガ宜カラウト云フ」ノデ已ムヲ得ズ政府ノ原案ノ儘デ是デ満足ナガラ先ヅ此度ハ是デ通シテ置カウト云フ考デアリマスガ豈ニ圖ランヤ之ニ是ヲ掛ケテヤルト云フノハ餘程跡戻リノコトデアアル、此政府ノ概算ニ據リマシテモ十萬圓以上ノ人ハ僅カ日本全國デ十四人ト云フ積ニナツテ居リマスガ併シモ果シテサウデアアルカ、此株券ノ配當トカ公債ノ利子ト云フヤウナモノヲ皆取ツテ仕舞ツテツレヲ除ケタラ外ノ純益ノ所得ガ十萬圓以上アル者ガ十四人アルカナイカ、私ハ悲シイカナウンナニナカラウト思フテ居ル、看板ハ極ムサグシイ看板ヲ掲ゲテ其實取ルモノハ餘計ナイ、併ナガラ政府ノ原案ハ先ヅ是位ナラバ已ムヲ得ズ目ヲツツテ置イテモ宜カラウト云フ位ノ考デ私ハ此度ハ改正シタイノデアリマスガ先ヅ多數ノ人ガサウ云フ意向デナイモノデスカラ已ムヲ得ズ之ニ同意ハシマセヌガ默過スル位ナ話デアリマス、ツレカラ水野君ノ御説ノ最小限ヲ低メヤウト云フ御説、二百五十圓マデ下ゲヤウト云フコトデ是ハ低度ノ話デアリマスガ詰リ三

百圓以下ヲ免稅スルハ人民ノ活計モ是ダケハ必要ナルカラト云フノ別ニ
定本ハナイ、二百圓ニシテモ理窟ハナイコトハナイ、私共ハ下ゲテモ宜イ位
ニ思フテ居リマス、併ナガラ今日ノ儘下ゲテハ困ル、二百圓トシテ置ケバ
二百九十九圓マデハ免稅デ三百圓トナルト早ヤ三圓取ル、詰リ細カク勘定ス
レバ二百九十九圓ダト二圓ダケ得ヲスル譯デ甚ダ法律面ガ緻ンデ居ラナイ、
私ノ考デハ二百圓マデ免稅シテ二百一圓トナレバツレカラ上カケテヤルコ
トニスレバ若シ三百圓所得ガアレバ最初ノ二百圓ハ引キ後ノ百圓ダケカケ
ル、斯ウ言フ理窟ニナレバ極公平デアラウト思ヒマスガ、ツレモ未ダ世ノ中
ガツレマデ進マヌカラ先ツ是位デヤラウト云フコトデ政府原案ノ通ニナツタ
ノデアリマスカラ此二百五十圓ニ下ゲヤウト云フ御説ハ殘念ナガラ同意ヲ致
シ兼ネルノデアリマス、ツレカラ此第四條ノ……

○議長(公曾近衛篤磨君) 第四條ハマダ問題ニ……

○男爵尾崎三良君 サウデスカ、ツレナラ……其ノ上、此稅法採ト云フモノハ
當局者カラ提出シテ是ダケハ入り用ダカラ是非取リタイト云ツタノヲ議院デ
殖スト云フコトハ、別ニサウ制限モナイガ慣例トシテ餘リ面白クナイコトデ
アリマスカラ到底水野君ノ修正案ニハ不同意ナノデアリマス、ドウカ特別委
員ニ於テ決議シタ通ニ御同意ニナツテ御採決アラントヲ希望致シマス

○子爵曾我祐準君 私モ本案ノ特別委員ノ一人デアリマスガ、水野君ノ修正
案ニ對シテハ大反對デアリマス、水野君ノ修正案ハ定規ノ贊成者ヲ得テ居ル
コトデアレバ贊成者ノ通告ガアリマスガ、私モ反對ノ演説ヲシタイガ餘リ反
對ノ方バカリ續イテ三人モ上リマスノハ如何デスガ、若シ水野君ニ定規ノ贊
成ガアレバ少クモ一人位ハ贊成ノ演説ヲサレル人ガアリマセウ、贊成ノ演説
ガアレバ都合ガ宜シイガ……

○議長(公曾近衛篤磨君) 定規ノ贊成ハアルノデアリマス

(男爵尾崎三良君) 的ガナケレバ矢ヲ放ツコトハヤメテ貰ハウト述フ

○子爵堀田正義君 チョット渡邊君サニ質問ヲシマス、今尾崎君カラモ御説
ガ出マシタガ稅率ヲ増スト云フコトハ不都合デアアル、政府ガ是ダケデ宜イト
云ツタノヲ其上ニ増スト云フコトハ甚ダ不穩當デ不都合デアアルト言レマシタ
ガ、ドウ云フ不都合ガアリマスガ、何カ議院法トカ憲法トカニ制限ガアツテ
議員ハ減少ハ出來ルガ増スコトハ出來ヌトカ云フ何カサウ云フ法律デモアリ
マスガ、ツレヲチヨット從來ノタメニ伺ツテ置キマス

○渡邊洪基君 ツレハ堀田子爵ノ御尋デアリマスガ別ニ法律ニハアリマセ
ヌ、私モ法律ニアルトハ申シマセヌ、併ナガラ精神ハ……西洋各國ハ……(低
聲聽取レス)

○子爵堀田正義君 渡邊君カラ御答デスガツレハ渡邊君一人ガ能クナイト云
フノデ、規則トカ法律トカニアルノデナイ、唯渡邊君ノ定見ニアルコトデア
リマスガ、何カ確實ナ據所デモアリマスガ

○渡邊洪基君 別ニ確實ナモノモナイ、日本ノ憲法ニモ法律ニモナイ、外國

ニハ法律ニモアル所モアル、併ナガラ慣例ニアル、私一己ノ考デハナイ
○子爵谷干城君 渡邊君ニ御質問シマスガ日本ニモ慣例ガナイト云フノデス
カ

○渡邊洪基君 イヤ、アルノデス、アルガ甚ダ宜クナイ

○子爵谷干城君 何ニアリマス

○渡邊洪基君 今能ク覺エマセヌガ第一議會カ第二議會ノトキニアリマス

○子爵谷干城君 私モ一體ノ趣意ハ渡邊君ト御同意デアアル、私ハ此趣意ヲ以
テカラニ彼ノ明治二十六年ニ出タ所ノ鐵道敷設法案ニ非常ニ反對シタ其トキ
ハドウ云フ議院ノ有様デアツタカト云フト六千萬圓ノ公債ヲ募ツテサウシテ
鐵道ヲ敷設スルト云フ政府ノ案ニ、ツレニ尙ホ又三千万圓程増シテヤツタコ
トガアル、誠ニ是ハ惡例、甚ダ宜シクナイコトデツレガタメニ私共非常ニ反
對シタ、所ガ其時分ハ多數ノ御方ハ皆御同意デアツタ、矢張御忘ニナツタラ
ウカト思ヒマスカラ……

○男爵尾崎三良君 如何デスカ、議論ガ他所ニ飛ブヤウデスガ、ドウカ是ハ
本案ニ關スルダケノ反對ナラ反對、贊成ナラ贊成ト云フコトニ致シタラ宜カ
ラウト思ヒマス

○水野遵君 最早御採決ノ際ト思ヒマスルデ、議長ニ一ツ願置キマスルガ是
ハドウカ二ツニ決テ御採決ヲ願ヒタウゴザイマス、十萬圓以上云々五百圓マデ
ノ修正ト二百五十圓ト云フコト、一ツ中ニアルコトデゴザイマスガ事實ガ餘
程違ヒマスルデドウカ……

○議長(公曾近衛篤磨君) 議長ニ於テハ斯ウ云フ採決ノ仕方ニスル積デゴザ
イマス、第三種ノ變更ト第一種ト云フ所ハ是ハ原案通デアリマスカラ修正意
見モ出テ居リマセヌ、第二種ニハ委員會ノ修正ガ出テ居リマス是ダケハ又別
ニ採リマス、第三條ハ水野君ノ修正案ト委員會ノ修正案トツレカラ原案
ト……

○水野遵君 私ノ願ヒマスルノハ私ノ案ニ附キマシテ文字ノ上デナクシテ二
百五十圓ト下ゲルコトヲ別ニ一ツ御採決ヲ願ヒタウゴザイマス、之ヲ特ニ請求
致シマス

○議長(公曾近衛篤磨君) 二百五十圓以上ト云フモノヲ別ニ採レト云フノデ
スカ

○水野遵君 ハイ

○議長(公曾近衛篤磨君) ツレハ便宜上カラサウ致シテモ宜シウゴザイマ
ス、ツレデヤ採決ヲ致シマス、第三條ノ本項竝ニ第一種ト云フ所、御異議ガ
ナクバ原案ニ決シマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

次ハ第二種、委員會ノ修正案ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公曾近衛篤磨君) 過半数ト認メマス、次ハ第三種、是ニハ水野君ノ

修正ガゴザイマスルガ、水野君ノ修正ノ中、此五百圓以上千分ノ十二ト云フ所マデニ附イテ決ヲ採リマス、御分リニナリマシタカ

(「モウ一應念ノタメニ……」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛篤磨君) 極ク簡單ニ言ヘバ二百五十圓以上千分ノ十ト云フ項ヲ除イテツレマデノ所ノ決ヲ採ルノデス、是ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 少數

○議長(公爵近衛篤磨君) 少數ト認メマス、次ニ二百五十圓以上千分ノ十ト云フ水野君ノ修正ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 少數

○議長(公爵近衛篤磨君) 是モ少數ト認メマス、次ハ委員會ノ修正ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵近衛篤磨君) 過半数ト認メマス、次ハ第四條

(河田書記官朗讀)

第四條 所得ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ算定ス

一 第一種ノ所得ハ各事業年度總益金ヨリ同年度總損金ヲ控除シタルモノニ依ル但シ第二條ニ該當スル法人ノ所得ハ此ノ法律施行地ニ於ケル資産又ハ營業ヨリ生スル各事業年度ノ益金ヨリ同年度總損金ヲ控除シタルモノニ依ル

二 第二種ノ所得ハ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル豫算年額ニ依ル但シ公債社債ノ利子、營業ニ非ル貸金ノ利子、配當金、俸給、給料、手當金、割賦、賞與金、歳費、年金、恩給金ハ其ノ收入額ノ豫算年額ニ依ル

前項第一號ノ場合ニ於テ益金中此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受ケタル配當金アルトキハ之ヲ控除ス

(特別委員ノ修正)

第四條 所得ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ算定ス

一 第一種ノ所得ハ各事業年度總益金ヨリ同年度總損金、前年度繰越金及保險責任準備金ヲ控除シタルモノニ依ル但シ第二條ニ該當スル法人ノ所得ハ此ノ法律施行地ニ於ケル資産又ハ營業ヨリ生スル各事業年度ノ益金ヨリ同年度總損金ヲ控除シタルモノニ依ル

二 第二種ノ所得ハ其ノ支拂ヲ受クヘキ金額ニ依ル

三 第三種ノ所得ハ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル豫算年額ニ依ル但シ此ノ法律施行地ニ於テ支拂ヲ受ケサル公債社債ノ利子、營業ニ非ル貸金、預金ノ利子、此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル法人ヨリ受ケタル配當金、俸給、給料、手當金、割賦、賞與金、歳費、年金、恩給金ハ其ノ收入額ノ豫算年額ニ依ル

前項第一號ノ場合ニ於テ益金中此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受ケタル配當金及此ノ法律施行地ニ於テ仕拂ヲ受ケタル公債社債ノ利子アルトキハ之ヲ控除ス

水野君ノ修正ハ

第四條第二號(特別委員修正ノ第三號)ノ末文「依ル」ヲ「依リ」ト修正シ其ノ以下ニ左ノ二十六字ヲ加フ

田畑ヨリノ所得ハ前三箇年間所得平均高ヲ以テ算出スヘシ

○渡邊洪基君 此場合反對ヲ致シテ宜シウゴザイマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 宜シウゴザイマス

(渡邊洪基君演壇ニ登ル)

○渡邊洪基君 此第四條ノ修正、委員會ノ修正ハ唯前條ノ修正カラノ結果茲ニ至ッタノトツレカラ事ヲ明ニシタノニ過ギマセヌノデゴザイマス、然ルニ水野君ヨリ此第三項、即チ修正ノ第三項ニ後トノ方ニ「田畑ヨリノ所得ハ前三箇年間所得平均高ヲ以テ算出スヘシ」ト云フコトヲ入レルト云フ修正デアリマスガ是モ甚ダ遺憾ナガラ不同意ヲ唱ヘザルヲ得ヌ、是ハ勿論委員會ニ於テハ話ハナカッタコトデゴザイマスガ、茲ニ新ニ出タノデアリマス、是ハ詰リ第三種ノ所得ハ豫算年額ニ依ルト云フコトニナツテ居ル即チ豫算ニ依ルノデアリマス其豫算ヲ調査委員會ガ査定スルノデアリマス、所デ此田畑ヨリノ所得ハ三箇年間ノ所得平均高ヲ以テ算出スルト云フコトニナレバ豫算デアナイ、田畑ヨリノ所得ヲ斯ノ如ク致セバ總テ工業デモ商業デモ皆其通デアル、田畑ニ豐凶アル如ク商業工業ニハ損得ガアル、デ田畑ヨリノ所得ヲ三箇年平均トスルト三箇年ハ前三箇年デアル其年不幸ニシテ凶作デモアレバ大變當ガ違フト云フコトニナル、豫算ハ凡ソ平均ヲ取ツタモノヲ豫算スルニ極ツテ居ルカラ決シテ斯様ナ懸念ハナイ、ノミナラズ斯ノ如ク致セバ徒ニ煩雜ヲ招クニ過ギヌト思ヒマスカラ此修正ニモ反對ヲ致シマス

○馬屋原彰君 委員ノ修正ニナリマシタ所ノ第四條ノ第三號ガ少シ分リマセヌカラ委員長ノ説明ヲ煩シマス此三ノ所デ最初ノ行中ノシマヒニアリマス「此ノ法律施行地ニ於テ支拂ヲ受ケサル」トアリマス、此意味ハドウ云フコトニナリマスカ、施行地ニ於テ支拂ヲ受ケズシテドコデ受ケルト云フ意味デアリマスカ即チ外國ニ於テト云フ意味ガアルノデアリマス

○渡邊洪基君 今御尋ノ通デアリマシテ此朱書ガナクトモ分ル

○馬屋原彰君 ドウカ實例ヲ舉ゲテ御説明ヲ願ヒマス

○渡邊洪基君 今仰シヤッタ通デス即チ施行セザル土地ニ於テ受ケル、外國トカ小笠原島トカデ受ケル、小笠原島デ受ケル者モアリマスマイガ、沖繩トカ伊豆七島トカ臺灣トカ云フ……

○馬屋原彰君 詰リ此意味ハ斯ウ云フコトニナルノデアリマスネ、法律施行地外ニ於テ支拂ヲ受ケルト云フコトニナルノデアリマス、夫レナラバ其通ニ書イタガ明瞭ニナルダラウト思ヒマス

○渡邊洪基君 所が受ケサルト言フ、外ニモ文例ガアリマスカラ……

○男爵渡邊清君 唯今ノ質問ナリ委員長ノ御答ニ附イテ少シ疑ヲ起シタノデアリマスカラ承リマスガ本員ノ解釋スル所ハ獨リ臺灣トカ外國トカ云フ例ノミナラズト思ヒマス、ト云フハ前ニ第二種ノ所デ「此ノ法律施行地ニ於テ支拂ヲ爲ス公債社債ノ利子千分ノ二十」ト斯ウ云フコトガ活キテ參タデアリマス、ソレニ此場所ニ於テ唯「公債社債ノ利子」ト云フコトダケ、即チ政府ノ提出ノ原案ダケニシテ見マスト最初カラ疑イテ居タノハ第二種ノ所デ公債社債ノ利子ヨリ千分ノ二十ヲ引去ラレテモ尙ホ此第四條ノ三號ニ於テ公債社債ノ利子ヲ尙ホ算入サル、ノジヤナイカト云フ疑ガアツタノデアリマス、ソレニ委員ガ「此ノ法律施行地ニ於テ支拂ヲ受ケサル」ト云フ字ヲ入レラレタカラモウ既ニ支拂ヲ受ケタル公債社債ノ利子ハ固ヨリ合算サレヌノダト言フコトガ分ツテ來タ、即チ裏ヲ見セタモノデアラウト本員杯ハ思フテ居タガサウ言フ意味ハ含マヌノデアリマスカ

○渡邊洪基君 唯今ノ御尋ノ所ハ此政府ノ元ノ案デ公債社債トアツテ修正ノナイノデハ誠ニ始カラ疑フノデス、チヨット之ヲ見タバカリデハ……所デ段段研究シテ見マスルト政府ノ原案ノ第五條ノ六號ニ其コトガ言フテアル、ソレニ依レバ自ラ二重ニ取ラレデナイト云フコトガ分ルノデアリマスガ如何ニモ婉曲デ困ル故ニ是ニ但書ヲ入レテ法律施行地ニ於テ受ケサルト言フ、即チ施行地外ニ於テ受ケル公債社債ノ利子ト言フ意味デアリマス、是ハ獨リ我國ノ公債社債ノミデハナイ外國ノマデモ、外國ノ公債社債ヲ持ッテ居レバソレモ這入ルノデアリマス

○男爵渡邊清君 ソレハ無論這入リマセウガ私ノ言フヤウナ解釋ハ惡ルイデスカ

○渡邊洪基君 仰シヤル通ダラウト思ヒマス詰リ法律施行地外ニ於テ支拂ヲ受ケルト云フ意味デアリマス、マア御分リニナリマセヌカ

○男爵渡邊清君 臺灣ナリ外國ナリハ無論デアリマスガ、モウ一ッ含蓄シテ裏ガアラウト思フテ居ッタ

○渡邊洪基君 裏ハ第二種ノ支拂ヲ受クベキ金額ニ依ル、即チ法律施行地ニ於テ受クベキ金額ニ依ルト云フノガ裏デアリマス

○水野遼君 私ハ唯今渡邊サンノ御説明ニ附イテ本案維持ノタメニモウ一應修正ノ主旨ヲ辯明致シテ置キタウゴザイマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 宜シウゴザイマス

○水野遼君 元來先程私が演壇デ申シマシタ通委員會デハ此田畑ニ附イテノ所得ニ關係スル議論ハナカッタノデアリマス私モ委員ノ一人トシテ自白ヲ致シマスト私ノ考デハ大ニ是ハ詮索ガ足ラナシト存ズル位デアリマス、ソレ故ニ修正案ヲ提出致シマシタ所以デアリマスガ唯今渡邊委員長ハ田畑モ工業モ同ジコトデ何デモ豫算デヤラナケレバナラヌト云フ御説ガアリマシタ一應ハ御尤デアリマス、併シ今日ノ工業ノ利益ヲ豫算スルト利益ヲ缺損スルノト

水損水害旱損等ノタメニ田畑ガ年々損害ヲ受ケルノトハ是ハ比較ハ出來マスマイト存ジマス、且ツ斯ウ云フ場合ガ始終生ジテ隨分ハ多數ノ財産ヲ所持シテ御居デノ方ニハ若シ此原案ノ通ニナレバ御困難デアラウカト存ジマス、一例ヲ申シマスルト一万圓ノ收入ガアル此一万圓ノ收入ノ内二千圓ハ何デアハカト云フト田地ヨリ生ズル所得デアアル、一万圓ノ所得稅ヲ納メルニ附イテハ若シモ三年ノ平均ヲ取ラズニ致シマスルト年々其平作ノモノトセヌケレバ收稅官吏ハ承知致シマスマイト存ジマス、今年水害デマルデ取レヌデアラウト云フコトヲ其年ノ四月ニ想像シテ居ケル者ハナイ、然ルニ若シ不幸ニシテマルデ收納ノナイトキニハ全ク其二千圓ノ所得ト云フモノハ事實ナクナツテ來マスケレドモ一万圓ノ上カラ見マスルト五分ノ一デ未ダ四分ノ一ニ達シマセヌ、故ニ法律ノ上デ是ニ對シテ所得稅ノ免稅ヲスルコトハ出來マセヌ、然ラバ多數ノ財産ヲ持ッテ居ル人ハ此法律ノタメニ年々極危險ナル居ヲ出シテ始終損害ヲ受ケル、損害ヲ受ケテモ回復スル途ガナイト云フコトハ明瞭デゴザイマスルガ故ニ現行法ノ通即チ三年平均ト云フコトハ至當デアラウト存ジマシテ修正案ヲ出シマシタノデゴザイマス、委員長ノ唯今ノ工場ト田地ノ御比較ハ少シ籌ヲ失シテ居リマスヤウニ存ジマス、故ニ修正案、辯護ノタメニ更ニ一言ヲ費シテ置キマス

○男爵尾崎三良君 第四條ノ修正デアリマスガ今水野君ヨリ理由ヲ述ベラレマシタケレドモ我々ハ矢張此原案ノ通デ宜カラウト思ヒマス御趣意ト云フモノハ田畑ニ水損旱損ノアルト云フ御説デアリマスケレドモソレハアルニ違イナイケレドモ工業ニシタ所ガ商業ニシタ所ガ必ズ盛衰ガアツテ現ニ紡績業ノ如キ去年ハ宜イガ今年ハ損ヲシタト云フヤウナ所ガ幾ラモアル、ケレドモ去年ノ始ニ當ツテ幾ラカ利益ノアルト云フ見込ガ附イテ居ッタニ違イナイ、其點ニ至ツテハ商業モ同ジコトデアラウト思フ、今年幾ラ儲ルト思ッタ所ガ案外世ガ不景氣ニナツテ買込ダ品物ガ下落スル、ソレデ損ヲスルト云フコトハ隨分アルデアラウト思フカラ今度ノ案デハ政府デハ四分ノ一以上ノ缺損ヲ生ジタトキニハ是ハ稅ヲ免ズルト云フ途ヲ附ケタカラ此原案デ宜カラウト云フコトニナツテ委員會デハ同意シタノデアリマスガドウモ共三箇年平均ト云フコトヲ此所ヘ設ケル以上ハ總テサウ云フコトニシナケレバ片手落デアラウト思ヒマスカラモウ長クハ申シマセヌガ是ハ原案通據置カレンコトヲ希望致シマス

○子爵曾我祐準君 水野サンニ御尋シタウゴザイマスガ水野サンノ修正案三條ニ附イテハ私ハ絶對的反對ヲ致シマシタガ四條ニ附イテハ先刻水野君モ自白サレル如ク我々委員トシテ委員會ニ於テハ一言モ此コトニ及バナカッタノデアラ、依テ水野君ノ御議論モ宜ク承知シ兼ネマスルガ御説明ハゴザイマシタガ今一應伺ッテ置キタウゴザイマス、此豫算ノ取立方ヲ去年三年デスルト云フ斯ウ云フ意味ニナルノデゴザイマスナ

○水野遼君 左様デゴザイマス、現行法ノ通現在ノ通

○子爵曾我祐準君 私ハ此條ニハ非常ニ贊成デス
○議長(公爵近衛篤磨君) ソレデハ採決ヲ致シマス、此採決モ第三號ダケハ水野君ノ修正ガアリマスカラ是ハ別ニ決ヲ取リマシテ第四條ノ本項ソレカラ一、二ト言フダケヲ委員會ノ修正ニ依ッテ決ヲ採リマス、委員會ノ修正ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス
起立者 多數

○議長(公爵近衛篤磨君) 過半數ト認メマス、次ハ第三號ノ所ノ水野君ノ修正ニ附イテ決ヲ採リマス水野君ノ修正ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス
起立者 多數

○議長(公爵近衛篤磨君) 過半數ト認メマス、次ハ末項委員會ノ修正ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス
起立者 多數

○議長(公爵近衛篤磨君) 過半數ト認メマス、第五條ヨリ第九條マデヲ朗讀ヲ致サセマス
(河田書記官朗讀)

第五條 左ニ掲クル所得ニハ所得稅ヲ課セス

一 軍人從軍中ニ係ハル俸給

二 扶助料及傷痍疾病者ノ恩給

三 旅費學資金及法定扶養料

四 營利ヲ目的トセサル法人ノ所得

五 營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得

六 外國又ハ此ノ法律ヲ施行セサル地ニ於ケル資産營業又ハ職業ニ依ル所得但シ此ノ法律施行地ニ本店ヲ有スル法人ノ所得ヲ除ク

七 此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受クル配當金

第六條 第二種ノ所得ハ三百圓ニ滿タサルトキハ所得稅ヲ課セス

但シ第三條第二項ノ場合ニ於テ其合算額三百圓ニ滿ツルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七條 納稅義務アル法人ハ各事業年度毎ニ損益計算書ヲ政府ニ提出スヘシ但シ第二條ニ該當スル法人ハ各事業年度毎ニ此法律施行地ニ於ケル資産又ハ營業ニ關スル損益ヲ計算シ其ノ計算書ヲ政府ニ提出スヘシ

第八條 第二種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ毎年四月中ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ政府ニ申告スヘシ

第九條 第一種ノ所得金額ハ損益計算書ヲ調査シ政府之ヲ決定シ第二種ノ所得金額ハ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府之ヲ決定ス

○議長(公爵近衛篤磨君) チョット御相談ヲシマスガ此六條八條九條是ダケノ内ニハ第二種ト云フ所ニ三種ト云フ委員會ノ修正ガアリマスカラ是ハ全部決議ノ結果自カラ斯ウナッテ來ルノデアリマスカラ第五條ヨリ第九條マデ全部原案ニ附イテ決ヲ採リマシタラバソレデ宜カラウト思ヒマスガ、御異議ガナクバ其通致シマス

(「異議ナシ」ト呼フ者多シ)

○議長(公爵近衛篤磨君) 第五條ヨリ第九條マデ原案ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ

請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵近衛篤磨君) 過半數ト認メマス、時刻ニナリマシタカラ一時休憩ヲ致シマス
午後零時一分休憩

午後一時二十一分開議

○議長(公爵近衛篤磨君) 是ヨリ報告ヲ致シマス
(小原書記官朗讀)

北海道舊土人保護法案特別委員會ニ於テ委員長ニ公爵二條基弘君、副委員長ニ男爵小澤武雄君當選セラレタリ

○議長(公爵近衛篤磨君) 是ヨリ午前ニ引續イテ會議ヲ開キマス第十條……
(河田書記官朗讀)

第十條 稅務署長ハ毎年第二種ノ所得ニ付納稅義務アリト認ムル者ノ所得金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ製シテ之ヲ所得調査委員會ニ送付スヘシ
(特別委員會修正案)

第十條 稅務署長ハ毎年第三種ノ所得ニ付納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ノ所得金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ製シテ之ヲ所得調査委員會ニ送付スヘシ

○議長(公爵近衛篤磨君) 委員會ノ修正ニ同意ノ諸君起立ヲ請ヒマス
起立者 多數

○議長(公爵近衛篤磨君) 過半數ト認メマス、次ハ第十一條ヨリ第十三條マデ……
(河田書記官朗讀)

第十一條 各稅務署所轄内ニ所得調査委員會ヲ置ク

第十二條 調査委員ノ定數ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 調査委員ハ選舉區域ハ稅務署ノ管轄區域ニ依ル

調查委員選舉人ノ選舉區域ハ市町村ノ區域ニ依リ東京市京都市大阪市札幌區函館區ニ在テハ區ノ區域ニ依ル

○議長(公爵近衛篤磨君) 第十一條ヨリ第十三條マデ御異議ガナクバ原案ニ決シマス

(「異議ナシ」ト呼フ者多シ)

○議長(公爵近衛篤磨君) 第十四條……
(河田書記官朗讀)

第十四條 選舉區域内ニ住居シ第八條ノ申告ヲ爲シタル者ハ調査委員選舉人ヲ選舉シ又ハ調査委員若ハ調査委員選舉人ニ選舉セララルコトヲ得但シ左ニ記載スル者ハ調査委員トナルコトヲ得ス

一 無能力者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ルマデノ者

三 國稅滯納處分ヲ受ケタル後一箇年ヲ經サル者

四 剝奪公權者及停止公權者

五 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルニ至ルマデノ者

六 第四十六條ニ依リ處罰セラレタル後五箇年ヲ經サル者

(特別委員修正)

第十四條 選舉區域内ニ住居シ第八條ノ申告ヲ爲シタル者ハ調査委員選舉人ヲ選舉シ又ハ調査委員若ハ調査委員選舉人ニ選舉セラルルコトヲ得但シ左ニ記載スル者ハ此ノ限ニ在ラス

一 無能力者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ルマデノ者

三 國稅滯納處分ヲ受ケタル後一箇年ヲ經サル者

四 剝奪公權者及停止公權者

五 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルニ至ルマデノ者

六 第四十六條ニ依リ處罰セラレタル後五箇年ヲ經サル者

○議長(公衛近衛篤磨君) 特別委員ノ修正ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス
起立者 多數

○議長(公衛近衛篤磨君) 過半数ト認メマス、次ハ第十五條ヨリ第二十二條マデ……

(河田書記官朗讀)

第十五條 調査委員選舉人ノ定數ハ其ノ選舉區域内ニ於ケル第八條ノ申告ヲ爲シタル者十八ニ付一人トス但シ申告者二百人以上ナルトキハ二十人ニ止メ申告者十八未滿ナルトキハ一人トス

第十六條 調査委員選舉人ノ選舉事務ハ市區町村長又ハ戸長之ヲ執行シ調査委員ノ選舉事務ハ稅務署長之ヲ執行ス

第十七條 稅務署長ハ調査委員選舉人ノ選舉期日ヲ定メ之ヲ市區町村長又ハ戸長ニ通知スヘシ

市區町村長又ハ戸長ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ少クとも選舉期日七日前其ノ旨ヲ公示スヘシ

第十八條 選舉ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

第十九條 選舉ハ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 調査委員選舉人ノ選舉終了シタルトキハ市區町村長又ハ戸長ハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

第二十一條 稅務署長ハ選舉期日ヲ定メ少クとも七日前ニ公示シ調査委員及之ト同數ノ補選員ノ選舉ヲ行ハシムヘシ

前項ノ選舉ニ關シテハ第十八條及第十九條ノ規定ヲ準用ス

第二十二條 調査委員及補選員ノ選舉終了シタルトキハ稅務署長ハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

○議長(公衛近衛篤磨君) 第十五條ヨリ第二十二條マデ御異議ガナクハ原案

貴族院議事速記第十五號

明治三十二年一月二十四日

所得稅法改正法律案 第二讀會

一九三

ニ決シマス

(「異議ナシ」ト呼フ者多シ)

○議長(公衛近衛篤磨君) 第二十三條……

(河田書記官朗讀)

第二十三條 調査委員及補選員ニ選ハレタル者ハ正當ノ事故ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

(特別委員修正)

第二十三條 調査委員及補選員ニ選ハレタル者ハ正當ノ事故ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

○議長(公衛近衛篤磨君) 委員會ノ修正ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス
起立者 多數

○議長(公衛近衛篤磨君) 過半数ト認メマス、第二十四條ヨリ第三十三條マデ……

(河田書記官朗讀)

第二十四條 調査委員ノ任期ハ滿四年トシ二年毎ニ其ノ半数ヲ改選ス但シ第一回ノ改選期ニ於テハ抽籤ヲ以テ其ノ退任者ヲ定ム

補選員ハ二年毎ニ之ヲ改選ス

調査委員ニ關員ヲ生シタルトキハ投票ノ數最も多キ補選員ヨリ順次之ヲ補充ス但シ投票ノ數同キトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

補選員ヨリ調査委員トナリタル者ノ任期ハ前任者ノ殘期間トス

第二十五條 調査委員會ハ遲クとも毎年八月一日マデニ開會スルヲ要ス

第二十六條 調査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第二十七條 調査委員會ハ毎年開會ノ始ニ於テ調査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ

第二十八條 調査委員會ハ定員ノ過半数ニ當ル委員出席スルニアラサレハ決議スルコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第二十九條 調査委員ハ自己ノ所得金ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第三十條 八月三十一日マデニ調査委員會成立セサルカ又ハ調査終了セサルトキハ所得金額調査未済ノ者ニ付テハ政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定ス

第三十一條 政府ハ調査委員會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ之ヲ再調査ニ付ス仍其ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ又ハ再調査ニ付シタル日ヨリ十五日以内ニ調査終了セサルトキハ政府ニ於テ所得金額ヲ決定ス

第三十二條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十三條 調査委員ニハ日當及旅費ヲ支給ス

○議長(公衛近衛篤磨君) 第三十四條ヨリ第三十三條マデ御異議ガナケレバ原案ニ決シマス
(「異議ナシ」ト述フル者アリ)

○議長(公費近衛篤磨君) 第三十四條

(河田書記官朗讀)

第三十四條 調査委員會及稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ニ對シ其ノ所得ニ關スル事實ヲ質問スルコトヲ得

(特別委員修正)

第三十四條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ニ對シ其ノ所得ニ關スル事實ヲ質問スルコトヲ得

○議長(公費近衛篤磨君) 委員ノ修正ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公費近衛篤磨君) 過半數ト認メマス、次ハ第三十五條ヨリ第四十一條マデ

(河田書記官朗讀)

第三十五條 政府ハ第一種及第二種ノ所得金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

(特別委員修正)

第三十五條 政府ハ第一種及第三種ノ所得金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

(原案)

第三十六條 納稅義務者政府ノ通知シタル所得金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ申出テ審査ヲ求ムルコトヲ得

第三十七條 前條ノ請求アリタルトキハ審査委員會ヲ開キ其ノ決議ニ依リ政府之ヲ決定ス

審査委員會ハ收稅官吏四人調査委員三人ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十八條 納稅義務者ハ前條ノ審査ヲ求メタル場合ト雖通知ヲ受ケタル所得金額ニ依リ稅金ヲ納ムヘシ

第三十九條 所得金額ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴訟願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第四十條 第二種ノ所得ニ付納稅義務アル者所得金額四分ノ一以上ヲ減損シタルトキハ政府ニ申出テ所得金額ノ更訂ヲ求ムルコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過クルトキハ所得金額ノ更訂ヲ求ムルコトヲ得ス

(特別委員修正)

第四十條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者所得金額四分ノ一以上ヲ減損シタルトキハ政府ニ申出テ所得金額ノ更訂ヲ求ムルコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過クルトキハ所得金額ノ更訂ヲ求ムルコトヲ得ス

第四十一條 前條ノ請求アリタルトキハ政府ハ其ノ所得金額ヲ査査シ決定額ニ對シ四分ノ一以上ノ減損アリタルトキハ所得金額ヲ更訂ス

○議長(公費近衛篤磨君) 唯今問題ニナツテ居リマス、是ハモウ前ニ申シタ通當然ノ結果デゴザイマス、原案ニ就イテ決ヲ採リマス、左様御承知ヲ願ヒ

マス、第三十五條ヨリ第四十一條マデ御異議ガナクバ原案ニ決シマス

(異議ナシト述フル者アリ)

○議長(公費近衛篤磨君) 第四十二條

(河田書記官朗讀)

第四十二條 第一種ノ所得ニ付テハ各事業年度毎ニ所得稅ヲ徵收ス
第二種ノ所得ニ付テハ所得稅ノ年額ヲ二分シ其ノ年九月及翌年三月之ヲ徵收ス但シ納稅者納稅管理人ヲ定メシテ帝國外ニ住所若ハ居所ヲ移ストキハ其ノ際直ニ其ノ所得稅ヲ徵收スルコトヲ得

(特別委員修正)

第四十二條 第一種ノ所得ニ付テハ各事業年度毎ニ所得稅ヲ徵收ス
第二種ノ所得ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ所得稅ヲ徵收シ其ノ都度之ヲ政府ニ納ムヘシ

第三種ノ所得ニ付テハ所得稅ノ年額ヲ二分シ其ノ年九月及翌年三月之ヲ徵收ス但シ納稅者納稅管理人ヲ定メシテ帝國外ニ住所若ハ居所ヲ移ストキハ其ノ際直ニ其ノ所得稅ヲ徵收スルコトヲ得

○議長(公費近衛篤磨君) 第四十二條、委員會ノ修正ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公費近衛篤磨君) 過半數ト認メマス、次ハ第四十三條ヨリ第五十條マデ

(河田書記官朗讀)

第四十三條 第四十條ノ請求アリタルトキハ政府ハ其ノ確定ニ至ルマテ稅金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第四十四條 第二種ノ所得ニ係ル所得稅ハ本人住所ノ地ヲ以テ納稅地トシ住所ナキトキハ居所ノ地ヲ以テ納稅地トス但シ納稅者ハ申告シテ住所又ハ居所以外ノ地ニ於テ所得稅ヲ納ムルコトヲ得此ノ法律施行地ニ住所又ハ居所ナキ者ハ納稅地ヲ定メ政府ニ申告スヘシ申告ナキトキハ政府其ノ納稅地ヲ指定ス

(特別委員修正)

第四十四條 第三種ノ所得ニ係ル所得稅ハ本人住所ノ地ヲ以テ納稅地トシ住所ナキトキハ居所ノ地ヲ以テ納稅地トス但シ納稅者ハ申告シテ住所又ハ居所以外ノ地ニ於テ所得稅ヲ納ムルコトヲ得

此ノ法律施行地ニ住所又ハ居所ナキ者ハ納稅地ヲ定メ政府ニ申告スヘシ申告ナキトキハ政府其ノ納稅地ヲ指定ス

第四十五條 納稅義務者納稅地ニ現住セサルトキハ其ノ所得稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲メ納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ

第四十六條 所得金額ヲ隱蔽シテ逃稅シタル者ハ其ノ逃稅金高三倍ノ罰金ニ處ス但自首スル者ハ其ノ稅金ヲ追徵シ其ノ罪ヲ問ハス

第四十七條 所得ノ調査又ハ審査ニ干與スル者其ノ調査又ハ審査ニ關スル事項ヲ他ニ漏洩シタルトキハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ニ依リ處罰セラレタル者ハ其ノ職ヲ失フモノトス

附則

第四十八條 此ノ法律ハ明治三十二年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス
第四十九條 明治二十年勅令第五號所得稅法ハ明治三十一年分所得稅限リ廢止ス

第五十條 此ノ法律ハ沖繩縣小笠原島及伊豆七島ニ當分ニ施行セス

○議長(公曾近衛篤磨君) 第四十四條ニ矢張「第二種」ガ「第三種」ト直ッテ居リマスガ、是ハ前申ス通ノ次第アリマス、ソレカラ末ノガ此ノ法律云々ノ云フ處カラ別項ニ上ルコトニ委員會デ修正ニナッテ居リマスガ、是等ハ瑣細ノコトデアリマスカラ外ノ四十三條ヨリ五十條マデ連ネテ決ヲ採ルトキ御異議ガナクバ一緒ニ決ヲ採リマス

(異議ナシ)ト呼フ者アリ
第四十三條カラ第五十條マデ御異議ガナクレバ原案ニ決シマス

(異議ナシ)ト呼フ者アリ
○議長(公曾近衛篤磨君) 是デ二讀會ヲ終リマシタ

○渡邊洪基君 第二讀會ヲ終リマシタ直ニ第三讀會ヲ開カレンコトヲ

○三浦安君 贊成
○議長(公曾近衛篤磨君) 直ニ第三讀會ヲ開クニ御異議ガナクバ第三讀會ニ移リマス

(異議ナシ)ト呼フ者アリ

○議長(公曾近衛篤磨君) 朗讀ハ省略致シマス本案全部御異議ガナクバ原案ニ決シマス

(異議ナシ)ト呼フ者アリ

○議長(公曾近衛篤磨君) 千葉縣茨城縣境界變更法律案、政府提出、衆議院回付、會議

(小原書記官朗讀)

千葉縣茨城縣境界變更法律案

右貴院ノ送付ニ係ル政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十五條ニ依リ及回付候也

明治三十二年一月十九日

衆議院議長片岡健吉

貴族院議長公曾近衛篤磨君

第一條 千葉縣及茨城縣ノ境界ヲ變更スルコト左ノ如シ

一 千葉縣下總國東葛飾郡二川村大字新田戸ノ内大字桐ヶ作ノ内中利根川以北ヲ茨城縣下總國猿島郡森戸村ニ編入ス

二 千葉縣下總國東葛飾郡二川村大字古布内ノ内中利根川以北及千葉縣下總國東葛飾郡木間ヶ瀬村大字木間ヶ瀬ノ内中利根川以北ヲ茨城縣下總國猿島郡長須村ニ編入ス

三 千葉縣下總國東葛飾郡我孫子町大字青山ノ内中利根川以北ヲ茨城縣下總國北相馬郡取手町ニ編入ス

四 千葉縣下總國東葛飾郡布佐町大字布佐ノ内下利根川以北ヲ茨城縣下總國北相馬郡布川町ニ編入ス

五 千葉縣下總國香取郡金江津村下利根川以南ヲ茨城縣常陸國稻敷郡ニ編入ス

シ千葉縣下總國印旛郡豐住村大字田川ヲ右金江津村ニ編入シ千葉縣下總國香取郡金江津村大字平川ノ内下利根川以南ヲ千葉縣下總國香取郡高岡村ニ編入ス

六

千葉縣下總國香取郡十倉島村ヲ茨城縣常陸國稻敷郡ニ編入シ千葉縣下總國香取郡神崎町大字小松ノ内大字神崎神宿ノ内大字神崎本宿ノ内大字今ノ内下利根川以北及千葉縣下總國香取郡本新島村大字野間谷原ノ内下利根川以北ヲ右十倉島村ニ編入ス

七

千葉縣下總國香取郡本新島村下利根川以南ヲ茨城縣常陸國稻敷郡ニ編入シ千葉縣下總國香取郡新島村大字八筋川ノ内大字境島ノ内大字大島ノ内大字三島ノ内横利根川以西及千葉縣下總國香取郡佐原町大字佐原ノ内横利根川以西ヲ右本新島村ニ編入シ千葉縣下總國香取郡本新島村大字川尻大字大戸新田及大字野間谷原ノ内大字石納ノ内大字飯島ノ内下利根川以南ヲ千葉縣下總國香取郡東大戸村ニ編入ス

八

茨城縣下總國猿島郡中川村大字長谷ノ内大字小山ノ内及大字庭打ノ内中利根川以南ヲ千葉縣下總國東葛飾郡川間村ニ編入ス

九

茨城縣下總國北相馬郡稻戸井村大字稻ノ内中利根川以南及茨城縣下總國北相馬郡取手町大字取手ノ内中利根川以南ヲ千葉縣下總國東葛飾郡我孫子町ニ編入ス

○伯爵清棲家敦君 政府委員ニ一應質問ガシタウゴザイマスガ此法案ハ曩ニ本院ニ於キマシテ可決致シマシテ衆議院ニ參リマシテ衆議院ニ於テ修正ニナリマシタ法案デゴザイマス、政府ニ於キマシテハ此修正ニ附キマシテ全然御同意デアルヤ否ヤト云フコトヲ明瞭ニ御答ヲ願ヒマス

(政府委員深野一二君演壇ニ登ル)

○政府委員(深野一二君) 御答ヲ致シマスガ、是ハ別段政府ニ於テハ差支ナイト認メマス、ドダイ縣ノ境界ヲ改正スルガ目的デゴザイマシテ、茨城縣ノ方カラ千葉縣ノ方ニ這入ッテ此先キ甲ノ村ニ入レルガ宜イカ乙ノ村ニ入レルガ宜イカト云フ問題デゴザイマシテ、政府ニ於テハ甲ノ村ニ入レルガ便利ト云フデ修正ニナリマシタ、是ハサウナリマシテモ政府ニ於テモ一向差支ナイト認メマス

○伯爵正親町實正君 此案ニ附キマシテハ唯今政府委員カラ辯明モアリマシテ政府ニ於テモ別ニ差支ナイ詰リ小山ノ内ヲ分ケテ水間ヶ瀬村中川村ト云フノヲ川間村ニ編入スルコト云フコト、考ヘマス、是ハ一向差支ナイコト、考ヘマス、衆議院ノ修正ニ同意シテ差支ナイト考ヘマス、一應申述ベテ置キマス

○議長(公曾近衛篤磨君) 他ニ御發議ガナクバ採決ヲ致シマス、衆議院ノ回付案ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公曾近衛篤磨君) 過半数ト認メマス、然ラバ之ニ同意ヲ與ヘルコトニ致シマス……

行政裁判法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

〔小原書記官朗讀〕
行政裁判法中改正法律案
右本院提出案及送付候也

明治三十二年一月十九日

衆議院議長片岡健吉

貴族院議長公露近衛篤磨殿

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ玆ニ載録ス〕

明治二十三年法律第四十八號行政裁判法中ノ通改正ス

第十四條 行政訴訟ノ代理人タルコトヲ得ルハ辯護士ニ限ル但法律勅令ニ特別ノ規程アルモノハ此限ニ在ラス

第十六條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ第十七條以下順次繰下ク

第十七條 法律勅令ニ特別ノ規程アルモノヲ除ク外行政廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ總テ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

〔政府委員平田東助君演壇ニ登ル〕

○政府委員〔平田東助君〕 今回行政裁判法中ノ改正案ガ衆議院カラ提出ニナリマシテ即チ本議ニ上リマシテゴザイマス、此事ニ附キマシテ一言政府ノ所見ヲ陳述シテ御參考ニ供シタイト考ヘマス、現行法ハ固ヨリ御承知ノアル通り記ノ方法ヲ採ッテゴザイマスガ衆議院ニ於キマシテハ之ヲ概括法ニ改正ヲシヤウト云フノ主意デゴザイマス、概括法ト列記法トニ附イテハ固ヨリ諸君モ御承知ノ通り各々長短ガアリマス、概括法ニ據ル所ノ長所モアル如ク又列記法ニ於テモ大ニ可トスル所ノ點モアリ互ニ長短ノアルコトハ固ヨリ免レヌ次第デゴザイマス、畢竟之ヲ概括法ニスルト列記法ニスルトハ其國ノ制度ノ關係並ニ民ノ行政ニ於ケル思想ノ發達ノ程度或ハ其國ノ慣習ト云フカ如ク様々ナル關係カラ概括法ニスルヲ良シトスル國モアリ又之ヲ列記法ニスルヲ便トスル國モアル、サレバ歐羅巴ニ於テモ概括法ヲ採ル國ト又列記法ヲ採ル國ノアルコトハ諸君御承知ノ次第デゴザイマス、彼ノ英吉利ノ如キ行政裁判所ノ設ノナイ國ハ格別、歐羅巴ノ大陸ニ於キマシテハ澳地利ノ如キハ概括法ヲ採ッテ今日マデヤツテ居リマス次第デゴザイマス、故ニ概括法ヲ採ルト列記法ヲ採ルト絶對ニ其可否ヲ申スノデハアリマセヌガ、我邦ノ今日ノ行政ノ各法律ノ關係カラ申シマスルト列記法ヲ採ル方ガ便利デアルト本官等ハ考ヘマス故ニ現行法モ斯ノ如ク制定シテアルノデアリマス、此列記法ヲ採リマスルト云フコトニ就イテハ今玆ニ喋々述ベルノ必要モゴザイマセヌガ、此改正案ノ如ク概括法ニスルト云フコトニ就キマシテ贊成スル能ハザル理由ヲ一言述ベテ御參考ニ供シタイト存ジマス、之ヲ概括法ニスル能ハザルト云フ第一ニ行政權ノ萎微振ハザルコトニナルデアラウコト云フ憂ハ強チ杞憂ニ屬スル譯デモアルマシカト思ヒマス、其次第ハ成程今ノ行政裁判法ニ於キマシテモ敢テ裁判中行政ノ處分ノ執行ヲ妨ゲヌコトニテ居リマス、又裁判中ト雖モ亦斯ノ如クナツテ居リマス、其カ差支ノナイヤウニ一應ハ開エマスルデゴザイマスガ併ナガラ行政上ニ於キマシテ訴權ノアルモノトナイモノトハ其性質上ヨリ之ヲ判斷シナケレバナラナイト云フコトノ原則ヲ取ラネバナラヌト同時ニ又行政官ニ於テモ一々之ヲ訴ヘラレルト云フコトニナリマシテハ到底行政ノ敏活ヲ保ツト云フコトハ自然ノ勢出來ナイ譯ニナラ

ウト思ヒマス、テ素ヨリ人民ノ權利ヲ侵害シタ以上ハ之ヲ裁判ニ訴ヘテ再ビ之ヲ矯メ直サネバナラヌト言フコトハ固ヨリ申スマデモナイコトデアリマスケレドモ、併ナガラ之ヲ必シモ總テ訴ヘルト言フコトニナリマスルト言フコトニナツテハ行政上ノ敏活ヲ到底保ツト云フコトハムヅカシカラウト思ヒマス、又行政ノ内ニ於テモ訴フベカラザル性質ノモノガ多キニ居ラウト思ヒマス、サレバ歐羅巴ノ國ニ於テ概括法ヲ採ル國ニ於テモ悉ク是ハ絶對ニ訴ヘ得ザルト云フコトニハナツテ居ラヌノデゴザイマス、例ヘバ行政權ノ大部分ヲ占メテ居リマスル認定權ノ如キハ必ズ行政裁判ノ訴權ノ内ヨリ之ヲ取除イテアルト云フノガ通例ノヤウデゴザイマス、然ルニ本案ノ如キハ一行政廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ總テ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得トゴザイマス、法律勅令ニ特別ノ規定アルモノヲ除ク外ト云フ除外ガゴザイマスケレドモ、斯ウナリマスルニ其訴權ヲ與ヘナイモノ、方ヲ除カナケレバナラヌヤウニナリマス、誠ニ煩雜ノコトニナリマセウト思ヒマス、煩シイモノヲ拵ヘナケレバナラヌヤウニナラウト思ヒマス、恰モ是ハ今日ノ現行ノモノト反對ノ結果ニナリマス、又斯ノ如ク絶對ノ訴權ヲ與ヘマスルコトニナリマスルト隨分ノ濫訴ノ弊ハ免レナイト思ヒマス、人民ノ權利ヲ保護シナケレバナラヌト云フコトハ固ヨリ申スマデモナイケレドモ濫訴ノ弊ハ之ヲ防ガナケレバナラヌト云フコトハ固ヨリ申スマデモナイケレドモ濫訴ノ弊權ガ訴ヘ得ベキモノデアラウト思ヒマス、概括法ニ於テハ此目的ヲ達スルコトハトガ必要ナコトデアラウト思ヒマス、或ハ曰ク縱令概括法ヲ採ル雖モ今日法律思想ノ段々發達シタ時代ニ當ッテハ法律專門ノ人ニ乏シイ譯デモナイカラスノ如キ場合ニ於テハ大底皆法律專門ノ士ニ就イテ之ヲ聞ク故ニ訴フベカラザルモノト訴フベキモノトノ區別ハ明瞭ニナルコトデアラウカラサマデ其邊ニ憂ヲ懷ク必要ハアルマイト云フヤウナ説モゴザイマス、併ナガラ成程今日ハ法律思想及行政思想ハ稍々發達シタトハ申シマスケレドモ各地方ニ於テスノ如キ人士ニ乏シクナイト云フヤウナ氣運ニハ達シテ居ルマデ各地方ハ必ズ大都會ニ出デ、以テ行政及法律ニ疏通シタ所ノ人士ヲ求メナケレバナラナイト云フコトハ免レナイ結果ニナリマセウト思ヒマス、デスノ如キコトハ今日ノ日本ノ程度ニ於テハ餘程不便ナモノデアリマセヌカ、然ラバ豫メ法律ニ於テ人民ノ有スベキ所ノ訴權ヲ明ニシテ書イテ置クト云フコトノ便宜ハ即チ是ハ列記法ニ於テ始テ求メルコトヲ得ベキモノデアラウト考ヘルノデアリマス、右ノ如キ理由ヲ以テ何分本案ニハ政府ハ贊同ヲ表シ難イデアリマス、併ナガラ現行ノ行政裁判所法ヲ以テ政府ハ之ヲ完備シタルモノデアラウヤト云フコトニナリマシテハ決シテ完備シタルモノトハ認メテ居リマセヌノデゴザイマス、二十三年始テ現行法ヲ發布アリマシタ以來各種ノ法律ノ變更モゴザイマス、故ニ今日ハ最早之ヲ改正致シマシテ完備ノ行政裁判法ト爲スベキ地ニ達シテ居リマセウト思ヒマス故ニ政府ハ慎重ニ調査ヲ致シマシテ次ノ議會マデニハ必ズ相當ノ法案ヲ具ヘマシテ諸君ノ前ヘ提出致シマスル考デアリマス、併セテ此コトモ一言御參考ニ供シテ置キマス

○山脇玄君 私人質問デハナイデス、私ハ此議事ノ進行上ニ就キマシテ聊カ意見ガアリマスガ、述ベテ宜シウゴザイマスカ

○議長(公衛近衛篤磨君) 議事ノ進行ト云フノハドウ云フコトデスカ

○山脇玄君 極ク簡短デアリマスカラ御許ヲ……

○議長(公衛近衛篤磨君) 宜シウゴザイマス

○山脇玄君 此改正案ニ就キマシテ唯今ノ政府委員ノ御説明ノアリマシタル通我國ノ此現行制度ヲ大ニ改良シヤウト云フ案デアリマス、之ヲ研究スルコトハ至極必要ナコトデアルト存ジマス、其コトハ次ニ致シマシテ差當リ今茲ニ諸君ニ一應申上ゲテ置キタイコトハ現行ノ制度ニ依リマスルト總テ行政裁判所ニ出訴致シマスルニハ地方ノ上級行政廳ニ訴願ヲ致シマシテ其裁決ガアツタ後デナケレバ出訴ハ出来ナイコトニナツテ居リマス、又一面ニ於キマシテハ訴願法ノ第一條ニ訴願ヲ得ル事件ヲ列記シテアツテ法律勅令ニ許シテアル事件デナケレバ訴願ヲ提起スルコトハ出来ナイト云フコトニナツテ居リマス、ソコデ今ノ此行政裁判法ノ改正デ行政裁判ノ權限ヲ擴張致シマシタトコロガ訴願法ノ改正ヲ同時ニ致シマシテ訴願法中ニ訴願ヲ許ス途ヲ開キマセヌト裁判所ニ出訴スルコトガ出来ヌノデアリマス、之ヲ建築ニ譬ヘテ申シマセウナラバ二階ヲ築イテ階子ヲ設ケナイト云フヤウナ有様デアツテ二階ハ立派ニ出来上ツテモ昇ルコトガ出来ナイト云フヤウナ結果ニナルノデアリマスカラ如何デアリマセウカ、尤モ衆議院ノ速記録ヲ見マスルト此案ノ提出者モ此コトニ御氣ガ附イタト見ヘマシテ訴願法ノ改正案モ唯今衆議院ノ議ニ上ツテ居ルヤウデアリマス、果シテサウデアリマスルナラバ此案ノ本院ニ於キマスル會議ハ衆議院ヨリ訴願法ノ改正ガ迴ッテ參リマスルマデ此議事ヲ延期シテハ如何ナモノデアリマセウカ、假令之ヲ委員ノ審查ニ付シマシタスルモドウシテモ此一方ノ訴願法ノ改正案ガアリマセヌト議事ノ進行ハ到底出来マセヌデアリマスルカラ私ハ今日此議事ヲ延期シテ他日衆議院ヨリ訴願法ノ改正案ガ本院ニ回リマシタトキニ同時ニ議事日程ニ載セテ御審議ニナツタナラバ御便宜ダラウト云フ考ヲ以チマシテ先ヅ今日ハ此議事ヲ延期スルト云フコトニナツタ方ガ宜シカラウト考ヘマス、此コトヲ一ノ動議トシテ提出致シマス

○馬屋原彰君 唯今山脇君カラ先ヅ之ヲ延バシテ置クト云フコトハ至極宜イコト、思ヒマス、本員モソレニ賛成致シマス、ドウカ諸君ノ御賛成ヲ願ヒタイ、成程政府委員カラモ段々説明相成リマシタ通「法律勅令ニ特別ノ規程アルモノヲ裁判所ニ出訴スルコトヲ得」ト斯ウ書イテモ皆デハアリマセヌケレドモ中央ノ行政官廳ヲ除クノ外ハ、アトハ是非訴願ヲ經ナケレバナラヌト云フコトニナツテ居ル、ドウシテモ是非訴願ヲ經ナケレバナラヌト云フコトニ今衆議院ノ議ニ付シ掛ツテ居ルト云フ際ニ當リマシテハ無論是ト併セテ議セマセヌデハ到底此案ニ附イテノ賛否モ決セラレズ審議モ著手が出来マイト思ヒマス

○兒玉淳一郎君 本員ハチヨット山脇君ニ聞イテ置キタイコトガアリマスガ宜シウゴザイマス

○議長(公衛近衛篤磨君) 宜シウゴザイマス

所ヘ出ラレヌモノガ澤山アルノデアラカラツレバ成ルベク出サセルヤウニ、此案ヲ通過サセルヤウニ、衆議院ニ唯今議シテ居ルノヲ待ツレト併セテ審査サセルト云フノ御趣意デアリマス、ソレヲ伺ヒマス

○山脇玄君 唯今ノ御質問ノ點ハ先刻モ申シマシタル通衆議院ノ案ハ現行ノ裁判制度ヲ大ニ改良シヤウト云フモノデアリマスカラ其利害得失ニ至ツテハ大ニ講究ヲ致スベキ問題デアラウト思フ、私ハ今直ニ此所デドノ方法ガ宜イト明言ハ致シマセヌ、イヅレハ委員ニモ掛リ能ク熟考ヲ致シマシタ上デ其方法如何ヲ極メナケレバナルマイト思ヒマス、今私ハ何トモ意見ヲ申上グルコトハ出来マセヌ、唯此案ヲ議スルニ附イテハドウシテモ訴願法ノ改正ト同一デナケレバ假令此案ヲ通過サセタスルガハ歩ムコトハ出来ナイ案デアラカラ一時延期ヲシタイト云フダケノ考デアリマス

○兒玉淳一郎君 山脇君ニ賛成致シマス

○周布公平君 本員ハ本案ハ特別委員ニダケハ付セラレルガ宜シカラウト思フ、其行政裁判ノ概括法ト列記法ト云フニ附キマシテハ餘程議論ノアルコトデアリマシテ今日此案ガ衆議院カラ當院ニ回リマシタ場合ニ於キマシテ十分ニ此利害得失ハ研究シナクチャナラヌコト、考ヘマス、訴願法ト牽聯ハ致シマスケレドモ又訴願法ハ衆議院カラ回ッテ參リマシタトキニ同一ノ特別委員ニ其トキニ當ツテ付託ニナツテ宜カラウト思ヒマス、餘程是ハ特別委員ニ於キマシテモ研究ヲ要スルコトデアリマスカラ急ニハ報告ニナルヤウニハナルマイト思ヒマス、速ニ特別委員ダケニハ付セラレテ成ルベク研究ノ日數ヲ與ヘマシタ方ガ宜シイト思ヒマス、又訴願法ガ衆議院カラ回リマセヌニ致シマシテモ此案モ調査スルニ於キマシテハ牽聯スル訴願法ナリ又其他ノ法律ハ特別委員ニ於テ無論併セテ十分研究ニハ相成ルコトデアリマセウカラ特別委員ニ付セラレテ差支ナイト思ヒマス願クハ特別委員ニハ今日附セラレンコトヲ希望致シマス

○議長(公衛近衛篤磨君) 山脇君ノ動議ニ附イテ決ヲ採リマス、山脇君ノ動議ハ本案ノ議事ヲ延バサウト云フノデアリマス、是ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 少數

○議長(公衛近衛篤磨君) 少數ト認メマス

○周布公平君 チヨット政府委員ニ質問致シテ置キタイコトガアリマスガ關席ニナツテ居リマス

○議長(公衛近衛篤磨君) 出席ニナツテ居リマス

○周布公平君 先刻政府委員ニ於キマシタル政府ニ於テハ此次ノ議會迄ニ十分ニ調査ヲシテ行政裁判法ノ改正案ヲ提出スル積デアルト斯ウ云フコトデアリマシタガ其改正セラレル所ノ主旨ハドウモ概括法デナクシテ列記法ノ方ノ旨趣デ改正セラレル所ノ主旨ハ御確定ニナツテ居リマス、或ハソレモ是カラ次ノ議會マデ調査ニナツテ或ハ概括主義ニ變更スルト云フヤウナコトニナルカモ知レヌト云フノデアリマス、主義ダケハ列記主義デアアルカ改正ヲ要スル事柄ト云フモノハ餘程廣イモノデアアル、行政裁判法全體ニモ種々ノ改正ヲ要スル箇條モアルコトデアアルカラ主義ハ列記主義デアアルケレドモ十分ニ尙ホ調査ヲ致シテ次ノ會議マデニ法案ヲ提出スル、斯ウ云フ政府ノ御考デアリマス

(政府委員平田東助君演壇ニ登ル)

○政府委員(平田東助君) 周布君ニ御答致シマスガ唯今述ベマシタ如ク政府ハ概括法ヲ以テ適當ナラズト認メルノデゴザイマスカ列記法ノ主義ヲ採ルノデゴザイマスガ但現行法ハ完全ナラズト見テ居リマス之ヲ完備致スト云フコトノ考ヲ以テ調査致シマスル考デゴザイマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 他ニ御質疑ガナケレバ特別委員ノ選定ニ移リマス

○男爵中川與長君 本條ノ特別委員ハ議長ニ於テ御選定ヲ願ヒマス

○小原重哉君 贊成

○議長(公爵近衛篤磨君) 議長委託ニ御異議ガナクバ其通致シマス、今御委託ニナリマシタ委員ノ氏名ヲ御報告致シマス

(太田書記官朗讀)

行政裁判所法中改正法律案特別委員

子爵入江 爲守君 子爵永井 尙敏君 男爵本田 親雄君

周布 公平君 千阪 高雅君 馬屋原 彰君

水野 遵君 兒玉 淳一郎君 住友吉左衛門君

○議長(公爵近衛篤磨君) 明日ハ休會ヲ致シマシテ明後日開キマス、其日程ヲ御報告致シマス

(太田書記官朗讀)

一月二十六日午前十時開議

第一 請願委員長報告

第二 要塞地帶法案(政府提出)

第三 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第四 裁判所設立廢止及管轄區域變更ニ關スル法律案

(政府提出案)

第五 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第六 事業公債及鐵道公債會計法案(政府提出案)

(議院送付)

第七 債金ヲ公債費途ヘ繰替運用ニ關スル法律案(政府提出案)

第一讀會ノ續(特別委員)

第八 債金特別會計法中改正法律案(政府提出案)

(議院送付)

第九 明治二十三年法律第十四號廢止ニ關スル法律案(政府提出案)

第一讀會ノ續(特別委員)

第十 造幣局据置運轉資本増加ニ關スル法律案(政府提出案)

(議院送付)

第十一 葉煙草專賣資金會計法廢止ニ關スル法律案(政府提出案)

第一讀會ノ續(特別委員)

第十二

北海道官設鐵道用品資金會計法案(政府提出案)

第十三

作業會計法中改正法律案(製鐵所)(政府提出案)

第十四

作業會計法中改正法律案(專賣局)(政府提出案)

第十五

薩哈噠島鹹魚輸入關稅免除ノ請願

第十六

電信線電話線柱木敷地交付金寄附ノ請願

第十七

雞肉雞卵疫毒取締ノ請願

第十八

水害地租稅免除ノ請願

第十九

衆議院議員選舉法中改正ノ請願

第二十

復族ノ請願

第二十一

支那漆輸入關稅免除ノ請願

第二十二

千葉茨城兩縣境界變更ノ請願

第二十三

區裁判所出張所設立ノ請願

第二十四

電信局開設ノ請願

第二十五

郵便局設置ノ請願

第二十六

各府縣衛生課設置ノ請願

第二十七

本邦產漆液保護ノ請願

第二十八

人力車發明人ニ年金給與ノ請願

第二十九

輸出稅全廢ニ關スル請願

第三十

神戸生絲檢査所存置ノ請願

第三十一

輸入原料品免稅ノ請願

第三十二

西伯利亞地方鹹魚無稅輸入ノ件請願

第三十三

兌換銀行券條例改正ノ件請願

第三十四

田畠官ヲ設クルノ件請願

第三十五

遠洋聯隊漁業組織ノ請願

第三十六

國庫ニ對スル納拂及保證ニ銀行ノ信用ヲ利用スルノ請願

第三十七

內國勸業博覽會ヲ大阪ニ開クノ請願

第三十八

遠洋漁業獎勵法改正ノ請願

第三十九

議長(公爵近衛篤磨君) 今日ハ散會

○議長(公爵近衛篤磨君) 今日ハ散會

午後二時十七分散會

貴族院議事速記正誤

頁	段	行	誤	正	頁	段	行	誤	正
一六三	上	二〇	十一	十二	一七二	下	二六	致	致サント
一四七	下	七	員	院					